

聖泉大学看護学部

看護キャリアアップセンター活動報告

2018年度

Vol.7

聖泉大学看護学部附属看護キャリアアップセンター

## まえがき

聖泉大学看護学部  
学部長 木村 知子

関連施設の皆様におかれましては、日々、本学の教育およびキャリアアップセンターの活動にご支援、ご協力をいただきありがとうございます。

聖泉大学看護学部は開設 7 年目となり、大学院看護学研究科においては第 2 期生を輩出することができました。

当センターでは、今年度まで上野センター長、小山センター長の力強いリーダーシップのもと、地域の医療・教育の発展と向上、保健・医療・福祉・教育現場の相互交流を目的とし、看護研究講座、研究のサポート、共同研究を行ってきました。また、一昨年からは新たな取り組みとして卒業生のキャリア教育として、卒後 1 年目には急変対応、2 年目以降は看護研究の研修を企画し、こちらも充実してきました。卒業生には、学部を卒業した後も聖泉大学との繋がりをもちながら、それぞれの職場で活躍を続けていただきたいと思います。

看護研究講座においては、研究初心者を対象としたキャリアアップ講座と、研究の基礎を修得している方を対象としたキャリアジャンプ講座を企画・運営しています。キャリアアップ講座の修了者は 161 名、ジャンプ受講者は 47 名となりました。修了生の皆様には、本講座で培った研究能力を存分に発揮しておられることと存じますが、是非、研究を継続、発展させていただきたいと思えます。次なる飛躍の場として、本学大学院でさらに能力を磨き、研究の楽しさや喜びを実感していただきたいと思います。また、これから研究に取り組む予定の方、研究に関心をおもちの方には、最初の一步として、本講座を活用していただきたいと思います。

終了時アンケートでは、講座の内容、教員のサポートなど好評価をいただいております。センター長、委員会メンバーをはじめとする多くの教員の協力の賜物だと自負しております。今後も看護職の方々にとって身近なキャリアアップセンターを目指して参りますので、おおいに活用いただければ幸いです。

# 目次

まえがき

聖泉大学看護学部長 木村知子

---

I. キャリアアップ講座	1
1. キャリアアップ講座の概要	
2. キャリアアップ講座の開催	
3. キャリアジャンプ講座の開催	
II. 卒業生研修会	6
1. 卒業生研修会の開催	
III. キャリアアップ講座の講義内容および担当講師の紹介	7
1. キャリアホップ講座（第1回）	
2. キャリアステップ講座（第2回）	
3. キャリアアップ講座（第3回）	
4. 個別研究サポート（第4回）	
5. キャリアジャンプ講座	
IV. キャリアアップ講座に関するアンケート結果	16
1. キャリアアップ講座について	
2. キャリアジャンプ講座について	
V. 卒業生研修会について	33
1. 卒業生研修会の講義内容および担当講師紹介	
2. 卒業生研修会に関するアンケート結果	

## 資料

---

◆ 聖泉大学看護学部附属看護キャリアアップセンターの概要	40
◆ 聖泉大学看護学部附属看護キャリアアップセンター規程	41
◆ 2018年度の年間計画と実施状況	43
◆ 個人情報の使用に係る承諾について	44
◆ キャリアアップ講座受講者の情報システム利用について	45
◆ 共同研究のお誘い	46

---

あとがき

聖泉大学看護学部附属看護キャリアアップセンター長 流郷千幸

# I. キャリアアップ講座

## 1. キャリアアップ講座の概要

### ○キャリアアップ講座の目標

キャリアアップ講座が、地域の保健・医療・福祉・教育関係者の看護研究実践力の育成に寄与し、各々の相互交流の場となること。また、キャリアアップ講座をきっかけに、看護キャリアアップセンターの存在が地域に認知、定着され、さらなる地域連携や貢献へ展開できるようにしていくこと。

### ○講座の到達目標

- ①看護研究を実践するための基礎的な知識や技術を身につけることができる。
- ②研究を進める上での疑問点を明確にし、それを解決するための方法がわかる。
- ③地域の保健・医療・福祉・教育関係者と相互交流することで、看護研究へのモチベーションを向上することができる。

### ○開催日：キャリアアップ講座

平成 30 (2018) 年 6 月 25 日 (月)  
 7 月 25 日 (水)  
 8 月 17 日 (金)  
 8 月 31 日 (金)

### キャリアジャンプ講座

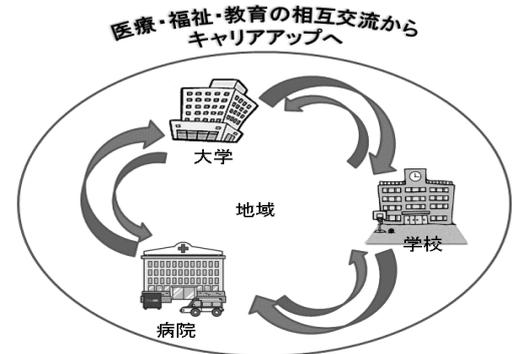
平成 30 (2018) 年 9 月 21 日 (金)

### ○場 所：聖泉大学学内

### ○対 象：主に滋賀県下の保健・医療・福祉・教育機関に在職する者

### ○プログラム：キャリアアップ講座

### キャリアジャンプ講座



キャリアホップ(第1回)	キャリアステップ(第2回)	キャリアアップ(第3回)	個別研究サポート(第4回)	キャリアジャンプ(特別講座)
6月25日(月)	7月25日(水)	8月17日(金)	8月31日(金)	9月21日(金)
<研究の方法と進め方> 講師：中川ひろみ	<量的研究> <基礎統計について> 講師：井之口文月	<質的研究> <面接調査の方法> 講師：西垣里志	<個別研究相談> 担当：看護学部教員	<統計解析の基礎> 講師：鈴木美佐
<研究計画書の書き方> <研究倫理について> 講師：中島真由美	<質問紙調査の方法> 講師：川嶋元子	<分析方法について> 講師：西垣里志		<統計解析の演習> 講師：鈴木美佐
<文献検索の方法> <文献クリティーク> 講師：平田美紀 参加者43名	<Excelを活用したデータ処理> 講師：川嶋元子 参加者40名(院生5名)	<学会発表の方法> 口演・示説 講師：森本喜代美 参加者42名		<SPSSを学ぼう> 講師：鈴木美佐 参加者12名(院生5名)

※講座参加者には、講座風景写真、及び終了後アンケート調査結果等、個人情報に係る内容について、文章を用いて説明し、使用の承諾を得た。

## 2. キャリアアップ講座の開催

○キャリアホップ（第1回）（聖泉大学ホームページ「News & Topics 2018／看護学部」より）

「平成30年度 キャリアアップ講座が始まりました」2018年06月25日

今年もキャリアアップセンター主催の「キャリアアップ講座」が開講しました。本講座は、「看護研究の基礎的知識，データ処理方法，学会発表の方法など身に付けるとともに，広く医療，福祉，教育の現場に携わる方の交流の場となること」を目的としています。

第1回目内容は，開講式のあと「研究の方法と進め方」「研究計画書の書き方」「研究論理について」「文献検索の方法」「文献クリティーク」という内容でした。受講者からは，「研究計画書をしっかり書いてから行うことが大切である」「文献クリティークの方法がわかった」「文献の探し方を学べた」として，「次からも頑張ろうと思う」などの声をいただきました。

今年度も，病院や施設，地域の専門職の方にご参加いただき，交流の場となっています。



○キャリアステップ（第2回）（聖泉大学ホームページ「News & Topics 2018／看護学部」より）

「第2回キャリアアップ講座を開催しました」2018年07月25日

看護キャリアアップセンター主催、平成30年度 第2回キャリアアップ講座（キャリアステップ）を開催しました。

今回は、本学の井之口文月講師と川嶋元子講師による「量的研究について」「基礎統計について」「質問紙調査の方法」の講義・演習を行いました。実際に受講生が質問紙を作成し、回答したものでExcelを活用してデータ処理をする演習を行いました。

受講者からは、「どのように集計をすればよいのかがわかった」、「アンケートの項目の設定の方法がわかった」、「Excelを活用したデータ処理を改めて知る機会となった」、「質問用紙は病棟でも作成することが多く、役に立つ」という意見がありました。



○キャリアアップ（第3回）（聖泉大学ホームページ「News & Topics 2018／看護学部」より）

「第3回キャリアアップ講座を開催しました」2018年08月17日

第3回目は、西垣里志准教授による「質的研究の方法」と、森本喜代美講師による「学会発表の方法」の講義・演習が行われました。

「質的研究の方法」では、質的研究の基礎知識や手法、面接調査における倫理的配慮についての講義と、模擬データを用いた分析の演習を行いました。「実際にコード化したことにより、分かりやすかった」、「インタビュー形式で研究をする予定なので参考になった」との感想をいただきました。

「学会発表の方法」では、口演と示説の違いについて講義があり、パワーポイントを用いたプレゼンテーション、ポスター作成について演習を行いました。参加者からは、「PPT作成を実践で活用していきたい」、「良いポスター作成のためには練習が必要」などの感想をいただきました。



○個別研究サポート（第4回）（聖泉大学ホームページ「News & Topics 2018／看護学部」より）

「第4回キャリアアップ講座「個別研究サポート」を開催しました」2018年08月31日

キャリアアップセンター主催のキャリアアップ講座は6月から月1回のペースで「ホップ」「ステップ」「アップ」と開催してきました。

第4回は「個別研究サポート」として、看護学部の教員20名が参加し、グループに分かれた受講生の研究に関する様々な疑問や悩みを解決するお手伝いをしました。

受講生は、持参した研究計画書を基に熱心に質問し、教員からのアドバイスを受けてたり、他の受講生の研究内容に耳を傾けたりしていました。

「4回の講座を受けて研究方法が深まり、これからの研究につなげていく自信がもてた。」「看護の質をあげていくためにも研究は必要であり、是非後輩たちにもこの講座の受講を勧めたい」という声を聴かせて頂きました。

全講座に参加された37名の受講生に修了証書を授与し、今年度の講座も盛会に終わることが出来ました。



### 3. キャリアジャンプ講座の開催

○キャリアジャンプ講座（聖泉大学ホームページ「News & Topics 2018／看護学部」より）

「平成 30 年度 キャリアジャンプ特別講座を開催しました。」2018 年 09 月 21 日

看護キャリアアップセンター主催による平成 30 年度 キャリアジャンプ特別講座を開催しました。看護研究のステップアップをはかるために、「統計解析の基礎」、「統計解析の実際」の講義、演習を行いました。統計解析の演習では、実際に統計解析ソフト SPSS を使用して、基本操作を学び、実際に模擬データを用いて記述統計、パラメトリック検定、ノンパラメトリック検定などを行い、結果の読み方を学習しました。

長時間に渡る研修でしたが、受講生からは「データの解釈がわかるようになったので量的研究に興味が出た。継続して取り組んでいきたい」、「難しかったがもっと勉強したいと思う」など研究継続への意欲的な意見が聞かれました。



## II. 卒業生研修会

### 1. 卒業生研修会の開催

○卒後2年目～4年目研修会（聖泉大学ホームページ「News & Topics 2018／看護学部」より）

「看護キャリアアップセンター主催による卒業生研修会を開催しました」2018年9月26日

聖泉大学看護学部1期生（卒後4年目）、2期生（卒後3年目）、3期生（卒後2年目）を対象とした研修会が開催され、12名の卒業生が母校での研修会に参加しました。

研修会では、流郷千幸教授による「看護研究とはー研究方法と進め方ー」と、中川ひろみ准教授による「研究計画書の書き方」、平田美紀准教授、鈴木美佐講師による「文献クリティーク」についての講義と演習が行われました。

受講した卒業生からは「難しいけど、聞いて良かった」「職場でもケーススタディに取り組んでいるので参考になった」「ゆっくりと時間をかけて研究について聞くことができた」といった感想をいただきました。

研修後の懇親会には懐かしい実習室で、卒業生と教員が楽しいひと時をすごしました。卒業生からは、現在の活躍の様子や悩みなどの報告がありました。教員からは卒業生の成長を喜ぶ声や、教員自身の経験に基づくアドバイスがあり、充実した時間となりました。



【流郷教授による「看護研究とは」】



【平田准教授による「文献クリティーク」講義】



【鈴木講師による「文献クリティーク」演習】



【卒業生の懇親会】

### Ⅲ. キャリアアップ講義内容および 担当講師紹介

#### 1. キャリアホップ講座（第1回）1時限目

講義テーマ	研究の方法と進め方	担 当	中川 ひろみ
日 時	平成30年6月25日（月）10:00~11:00	場 所	地域・精神・在宅看護学実習室

##### 1) 講義の概要

研究をすすめるプロセスを把握し、研究課題への絞り込みを学ぶ。看護研究が、看護師の暗黙知や経験知を視覚化し、看護の質の向上につながることを学習する。

##### 2) 講義の到達目標

- ①研究の問いによって手法が違うことを理解する。
- ②研究のステップを理解する。
- ③文献検索の方法を理解する。

##### 3) 講義内容

1. 研究を進めていく上で大切なこと
2. 研究のプロセス
3. 臨床研究を行う上で大切なこと
4. 研究課題（Research question）への絞り込み
5. 研究と理論のつながり
6. Evidence-based clinical practice とは

#### 引用文献

Newhouse RP, et al., Johns Hopkins Nursing Evidence-Based Practice Model and Guidelines, 2007.

Burns N and Grove S. K(2009). The practice of nursing research: Appraisal, synthesis, and Generation of evidence (6th ed.), Saunders, St Louis, 104-110.

近藤潤子監訳. 看護研究 原理と方法. 第2版. 医学書院. 2014.

系統的看護学講座 別巻 看護研究. 医学書院. 2017.

操華子著. 臨床看護研究の道しるべ. 日本看護協会出版会. 2006.

操華子・森岡崇訳: 研究デザイン 質的・量的そしてミックス法. 日本看護協会出版会. 2014.

#### 【講師】中川 ひろみ（成人看護学）

専門は成人看護学で『創傷・オストミー・失禁看護』に関する研究に取り組んでいる。

## キャリアホップ講座（第1回）2時限目

講義テーマ	研究計画書の書き方 研究倫理について	担 当	中島 真由美
日 時	平成30年6月25日（月）11:10～12:10	場 所	地域・精神・在宅看護学実習室

### 1) 講義の概要

研究計画書の書き方について、研究計画書の構成要素に沿って例題を用いながら学習する。また、研究計画を進めていくにあたり、必要となる倫理的配慮について学ぶ。

### 2) 講義の到達目標

- ①研究計画書の書き方を理解する。
- ②研究における倫理的配慮を理解する。

### 3) 講義内容

<p><b>1. 研究計画書の書き方</b></p> <ol style="list-style-type: none"><li>1) 研究計画書とは？</li><li>2) 研究計画書に記載すべき内容とは？</li><li>3) 研究計画書の書き方の実際</li><li>4) 研究の添付資料</li></ol> <p><b>2. 研究倫理について</b></p> <ol style="list-style-type: none"><li>1) 研究倫理とは</li><li>2) 研究倫理として考えておくべき内容</li></ol>
---

### 引用文献

- 坂下玲子（2016）：系統別看護学講座 別巻 看護研究，248-264，医学書院，東京。
- 南裕子，野島佐由美（2017）：看護における研究，第2版，120-134，日本看護協会出版会，東京。
- 黒田裕子（2017）：黒田裕子の看護研究 step by step，第5版，医学書院，東京。
- 早川和生（2012）：JJN スペシャル 看護研究の進め方 論文の書き方，114，医学書院，東京。
- 舟島なをみ（2015）：研究指導方法論，254-273，医学書院，東京。

### 【講師】中島 真由美（成人看護学）

専門は成人看護学で『慢性疼痛・疼痛緩和』に関する研究に取り組んでいる。

## キャリアホップ講座（第1回）3時限目

講義テーマ	文献検索の方法 文献クリティーク	担当	平田 美紀
日時	平成30年6月25日（月）13:30～15:40	場所	第4コンピュータ室

### 1) 講義の概要

研究論文から研究方法の種類・手順・内容を確認後、クリティーク「評価、検討、判断」の手順を学び、先行研究レビューの目的（意義）と方法について学習する。

### 2) 講義の到達目標

- ①研究論文から研究の方法の種類・手順・内容について理解する。
- ②文献クリティークの方法について理解する。
- ③演習を行うことにより、文献クリティークが理解できる。

### 3) 講義内容

#### 1. 文献検索の方法

- 1) 文献検索の目的
- 2) 文献の種類・データベース
- 3) 文献検索の方法・実際
- 4) 文献リストの作成

#### 2. 文献クリティーク

- 1) クリティークの意義
- 2) 論文の構成
- 3) 論文クリティークのプロセスとクリティカル・シンキングの要素
- 4) クリティークの実際

### 引用文献

黒田裕子(2012)：黒田裕子の看護研究 step by step, 第4版, 医学書院, 東京.

大木秀一：文献レビューのきほん, 医歯薬出版株式会社, 2013.

山川みやえ：よくわかる看護研究論文のクリティーク, 日本看護協会出版社, 2014.

### 【講師】平田 美紀（小児看護学）

専門は小児看護学で『検査・処置を受ける乳幼児に付き添う母親への支援』に関する研究に取り組んでいる。

## 2. キャリアステップ講座（第2回）1 時限目

講義テーマ	量的研究 基礎統計について	担 当	井之口 文月
日 時	平成 30 年 7 月 25 日（水）10：00～11：00	場 所	地域・精神・在宅看護学実習室

### 1) 講義の概要

量的研究の方法について学ぶことを目的とした講義である。量的研究の定義・意義・プロセスについて学び、基礎統計についての基本を学ぶ。

### 2) 講義の到達目標

- ①量的研究の定義・意義・プロセスについて理解する。
- ②基礎統計について理解する。

### 3) 講義内容

1. 量的研究とは
2. 量的研究のプロセス
  - 1) 対象の選定
  - 2) 標本の抽出
  - 3) 無作為化の重要性
3. 基礎統計について
  - 1) 計画段階
  - 2) データ集計
  - 3) 基礎統計

### 引用文献

- 藤林和俊（著），横川博英（監修）：看護研究をはじめのための統計と臨床疫学，学研メディカル秀潤社，2013.
- 中村好一：やさしい統計学入門，診断と治療社，2009.
- 市原清志：バイオサイエンスの統計学，南江堂，1990.

### 【講師】 井之口 文月（基礎看護学）

専門は基礎看護学で、『「人体の構造と機能」の教育方法』に関する研究に取り組んでいる。

## キャリアステップ講座（第2回）2・3時限目

講義テーマ	Excel を活用したデータ処理 質問紙調査の方法	担 当	川嶋 元子
日 時	平成 30 年 7 月 25 日（水） 11：10～12：00（質問紙調査の方法） 13:00～15：10（Excel を活用したデータ処理）	場 所	第 4 コンピュータ室

### 1) 講義の概要

質問紙調査の方法と、研究を進める上で必要なデータ処理に関するスキルを身につけることを目的とした講義である。具体的には、Excel を用いてデータを入力し、表計算の方法や記述統計について、実際に行った質問紙調査のデータを用いて演習を行う。

### 2) 講義の到達目標

- ①質問紙調査の方法について理解し、実際に質問紙を作成することができる。
- ②作成した質問紙調査を Excel を活用し、データを処理することができる。

### 3) 講義内容

#### 1. 質問紙調査の方法

- 1) 質問紙調査の長所・短所
- 2) 質問紙調査の具体的方法・構成
- 3) 操作的定義
- 4) 質問項目の設定・留意点・尺度について
- 6) 倫理的配慮について

#### 2. Excel を活用したデータ処理【演習】

- 1) 質問紙のデータの入力をする
- 2) データ処理をする
- 3) 記述統計（単純集計）
- 4) 集計表を作成する

### 引用文献

- 土屋雅子：看護・医療系スタッフのための質問紙作成ワークブック，診断と治療社，2014.
- 土屋雅子：看護・医療系研究のためのアンケート・面接調査ガイドー初心者にもできる質問紙・インタビューガイドの作り方，診断と治療社，2013.
- 石井京子：ナースのための質問紙調査とデータ分析，医学書院，2009.
- 坂下玲子：系統看護学講座別巻看護研究，医学書院，2017.
- 目黒正俊：よくわかる Microsoft Excel 2010 基礎，富士通 FOM，2013
- 田久浩志：医療者のための Excel 入門 超・基礎から医療データ分析まで，医学書院，2016

### 【講師】川嶋 元子（在宅看護学）

専門は在宅看護学で『訪問看護師が実践しているリハビリテーション看護』に関する研究に取り組んでいる。

### 3. キャリアアップ講座（第3回）1・2時限目

講義テーマ	質的研究・面接調査の方法 分析方法について	担 当	西垣 里志
日 時	平成30年8月17日（金） 10：00～11：30（面接調査の方法） 12：30～13：50（分析方法について）	場 所	地域・在宅・精神看護学実習室

#### 1) 講義の概要

質的研究の方法について学ぶことを目的とした講義である。質的研究方法の概要、面接調査の方法について講義を受けた後に演習にて、例題の逐語録のデータを分析し、コード化・カテゴリー化の方法について理解することができる。

#### 2) 講義の到達目標

- ①質的研究・面接調査の方法について理解できる
- ②データ分析の演習を行うことにより、逐語録をコード化、分析することができる

#### 3) 講義内容

##### 1. 質的研究の進め方

- 1) 質的研究とは
- 2) 質的研究の方法
- 3) 質的研究計画書の構成・倫理委員会への審査書類
- 4) 質的研究における倫理的配慮
- 5) インタビューについて（構造化・半構造化・非構造化インタビュー）
- 6) 信頼性と妥当性を高めるために
- 7) データの分析

##### 2. データ分析【演習】

- 1) 逐語録をコード化する
- 2) コード化したデータを分析し、サブカテゴリー、カテゴリー化する

#### 引用文献

- バーンズ&グローブ：看護研究入門 第7版，ELSEVIER，2015
- グレッグ美鈴ほか著：よくわかる質的研究の進め方，まとめ方，医歯薬出版，2008
- ホロウェイ+ウィーラー著：ナースのための質的研究入門，医学書院，2011
- 萱間真美著：質的研究実践ノート，医学書院，2010
- 萱間真美著：質的研究のピットフォール，医学書院，2013
- 黒田裕子著：看護研究 STEP BY STEP，医学書院，2014
- 小笠原知枝，松本光子著：これからの看護研究，NOUVELLE HIROKAWA，2012
- 坂下玲子他：別巻看護研究，医学書院，2018
- 谷津裕子著：Start Up 質的看護研究，Gakken，2015

#### 【講師】西垣 里志（精神看護学）

専門は精神看護学で『精神障害者の家族の負担軽減』に関する研究に取り組んでいる。

## キャリアアップ講座（第3回）3時限目

講義テーマ	学会発表の方法 口演・示説	担当	森本 喜代美
日時	平成30年8月17日（金）14:00～15:30	場所	第4コンピュータ室

### 1) 講義の概要

学会発表の意義と方法について学ぶ。また、スライド・ポスターの作成、学会発表の方法や諸注意事項について学習する。

### 2) 講義の到達目標

- ①学会発表の口演・示説について理解できる
- ②学会発表のための効果的なPowerPointを使用した資料の作り方を理解できる

### 3) 講義内容

1. 学会発表について
  - 1) 学会発表までのプロセス
  - 2) 演題登録
  - 3) 抄録作成
  - 4) 発表準備
2. パワーポイントを使ってのスライド作成について
  - 1) スライド作成の原理原則
  - 2) 3つの技術
3. スライド・ポスターの作成【演習】
  - 1) 実際にスライドを作成しよう
  - 2) 実際にポスターを作成しよう
4. 学会発表について
  - 1) 口頭発表・示説発表について
  - 2) 発表時の注意点について

### 引用文献

- 小笠原知枝，松木光子（2015）：これからの看護研究-基礎と応用-第3版，ヌーヴェルヒロカワ，東京
- 前田樹海（2014）：研究発表のプレゼンもっとよくなります！，日本看護協会出版会，東京
- 宮野公樹（2018）：学生・研究者のためのPowerPointスライドデザイン：化学同人，京都
- 及川慶浩（2011）：改訂第2版 初めてのでも安心！ナースのための研究発表のツボ211-プレゼンテーションがうまくいく-，メディカ出版，大阪
- 及川慶浩（2010）：思わずみんなが目をとめる研究発表ポスターセッション，メディカ出版，大阪
- 松本直子，操華子（2010）：臨床看護研究の道しるべ，日本看護協会出版会，東京
- 斎藤裕之・佐藤健一：JJNスペシャル 医療者のための伝わるプレゼンテーション，医学書院，東京，2010.

### 【講師】森本 喜代美（老年看護学）

専門は老年看護学で『在宅看取り・小児在宅ケア』に関する研究に取り組んでいる。

#### 4. 個別研究サポート（第4回）

講義テーマ	個別研究相談	担当	看護学部教員
日時	平成30年8月31日（金）10:00～12:00	場所	地域・精神・在宅看護学実習室 母性・小児看護学実習室

##### 1) 研究相談の概要

看護教員19人が39人相談者の希望する領域や研究テーマに合わせて個別に対応した。研究テーマを持つ相談者が多く、テーマを持たない相談者は他の受講生の相談と一緒に聴講するかたちであった。抄録や研究計画書を持参する受講生も多く、具体的な内容の指導となった。発表の予定は院内（施設内）・施設外が20件、予定なしが7件、不明が数件であった。

##### 2) 研究相談内容

- (1) 研究の問いをどのように絞り込めば良いか、研究の目的は何かを明確にする
- (2) 研究方法について（①データ収集方法について、②分析方法について）
- (3) 文献検討の必要性について
- (4) 倫理的配慮、倫理審査について

## 5. キャリアジャンプ講座

講義テーマ	統計解析の基礎・演習	担当	鈴木 美佐
日時	平成 30 年 9 月 21 日 (金) 10:00~11:30 (統計解析の基礎) 12:30~14:00 (統計解析の演習) 14:10~15:40 (SPSS を学ぼう)	場所	第 4 コンピュータ室

### 1) 講義の概要

看護研究に取り組む中で、Excel によるデータ処理・基礎統計に加え、さらに本格的に分析方法について学ぶことを目的とした講義である。

### 2) 講義の到達目標

- ①統計解析の基礎を理解する
- ②SPSS の操作が理解し、操作できる

### 3) 講義内容

#### 1. 統計解析の基礎

- 1) 統計、統計解析とは、なぜ統計・統計解析が必要なのか
- 2) 統計データの整理法 (度数分布, ヒストグラム)
- 3) データの傾向・性質・特徴を知る (平均, 中央値, 最頻値, 分散, 標準偏差)
- 4) 変数 (従属変数, 独立変数), 量的データと質的データ, 尺度
- 5) 仮説を立てる (統計学的仮説検定, 帰無仮説, 対立仮説)
- 6) 検定とは (帰無仮説, 有意確率, p 値, 有意水準, t 検定,  $\chi^2$  検定)

#### 2. 統計解析の演習

#### 3. SPSS を学ぼう

- 1) SPSS の基本操作
- 2) 変数ビュー, 新しい変数を作る
- 3) 記述統計,  $\chi^2$  検定, t 検定

### 引用文献

- 石村貞夫：SPSS でやさしく学ぶアンケート処理 第 4 版，東京図書，2015。  
 石村貞夫：よくわかる統計学 看護医療データ編 第 2 版，東京図書，2015  
 出村慎一：健康・スポーツ科学のための SPSS による統計解析入門，杏林書院，2007。  
 今野紀雄：図解雑学 統計，ナツメ社，1999。  
 米川和夫：超初心者向け SPSS 統計解析マニュアル，北大路書房，2010。  
 竹原貞真：SPSS のススメ 1，北大路書房，2013。  
 山蔭道明監修：看護研究これで安心！うまくいく！超入門らくらく使えるはじめての統計学，メディカ出版，2008

### 【講師】鈴木 美佐 (小児看護学)

専門は小児看護学で『食物アレルギーをもつ小児と家族の QOL』『採血を受ける小児のプレパレーション』に関する研究に取り組んでいる。

## IV. キャリアアップ講座に関するアンケート結果

### 1. キャリアアップ講座について

受講者の自己評価アンケートは、第1回講座「キャリアホップ」、第2回講座「キャリアステップ」、第3回講座「キャリアアップ」ならびに、第4回の研究相談「キャリアサポート」、第5回講座「キャリアジャンプ」において実施した。

#### 1) 第1回～第3回の講座

ここでは、第1回講座「キャリアホップ」、第2回講座「キャリアステップ」、第3回講座「キャリアアップ」後のアンケート結果をまとめた。なお、倫理的配慮については、第1回講座のオリエンテーションにおいて口頭で説明したうえで、講座終了後に回収した。

今年度の受講登録者数は43人（大学院院生含まず）であり、前年度よりも6人減少した。アンケートの回収数は第1回42人（回収率98%、有効回答率100%）、第2回44人（大学院院生6名含む）（回収率89%、有効回答率100%）、第3回42人（回収率98%、有効回答率100%）であった。

#### (1) 基本属性

年齢層は30～40歳代が約7割を占めており、看護の経験を積み重ねた熟練看護師がほとんどであった。また職種は、看護師・保健師であった（表1）。

表1 キャリアアップ講座受講者の属性

個人の属性	第1回 (n=42)		第2回 (n=44)		第3回 (n=42)	
	人数	割合(%)	人数	割合(%)	人数	割合(%)
性別						
男性	6	14.3	7	15.9	6	14.3
女性	36	85.7	34	77.3	35	83.3
無回答			3	6.8	1	2.4
年齢						
20歳代	6	14.3	7	15.9	6	14.3
30歳代	15	35.7	13	29.5	15	35.7
40歳代	16	38.1	20	45.5	17	40.5
50歳代以上	5	11.9	4	9.1	3	7.1
無回答					1	2.4
職種						
看護師	39	92.9	36	81.8	36	85.7
保健師	2	4.8	2	4.5	2	4.8
助産師	1	2.4	2	4.5	2	4.8
介護職	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	1	2.3	0	0
無回答			3	6.8	3	7.1
所属施設						
病院	40	95.2	39	88.6	40	95.2
介護老人保健施設・老人ホーム	0	0	0	0	0	0
訪問看護ステーション	0	0	1	2.3	0	0
保健所	1	2.4	1	2.3	1	2.4
その他	1	2.4	2	4.5	1	2.4
無回答			2	4.5		

(2) 各講座の内容に関する項目

第1回の講座は、『研究の方法と進め方』『研究計画書の書き方』『文献検索の方法』に関する内容であり、研究計画における倫理と文献クリティークを除いた内容についてはほぼ全員が理解できたと回答していた(図1~5)。文献検索とクリティークの講座では、1論文を題材とし全体で論文を批判的に読む内容であり、本学キャリアアップ講座において演習を通してクリティークが体験できる機会であり、今後継続して論文に触れる動機づけになった。

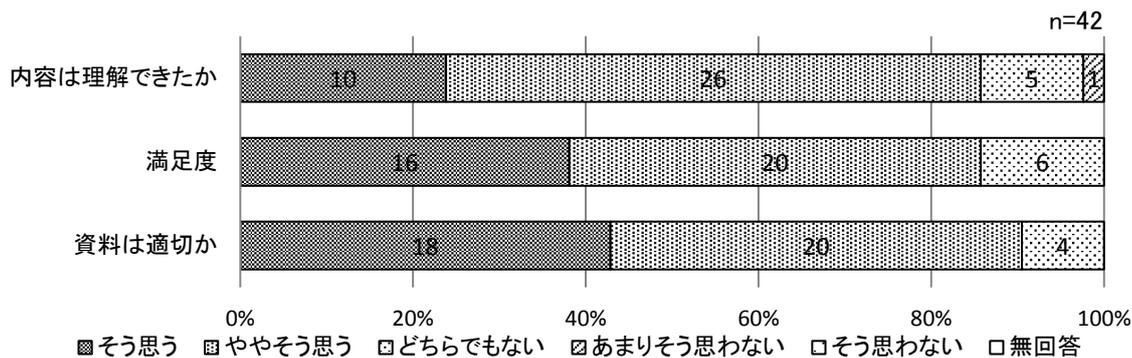


図1 第1回講座：研究の方法と進め方について

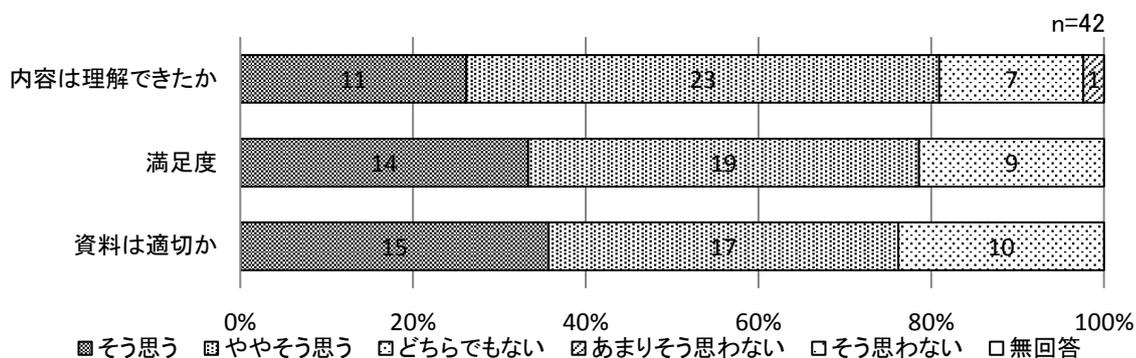


図2 第1回講座：研究計画書の書き方

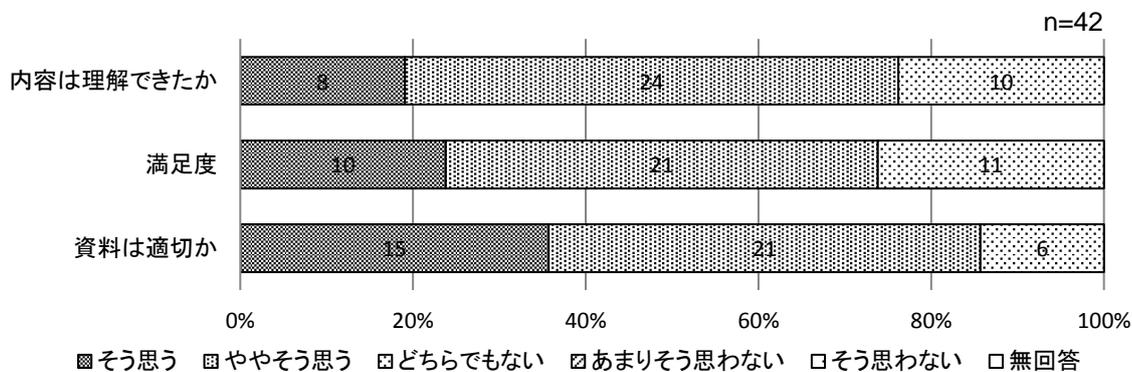


図3 第1回講座：研究倫理について

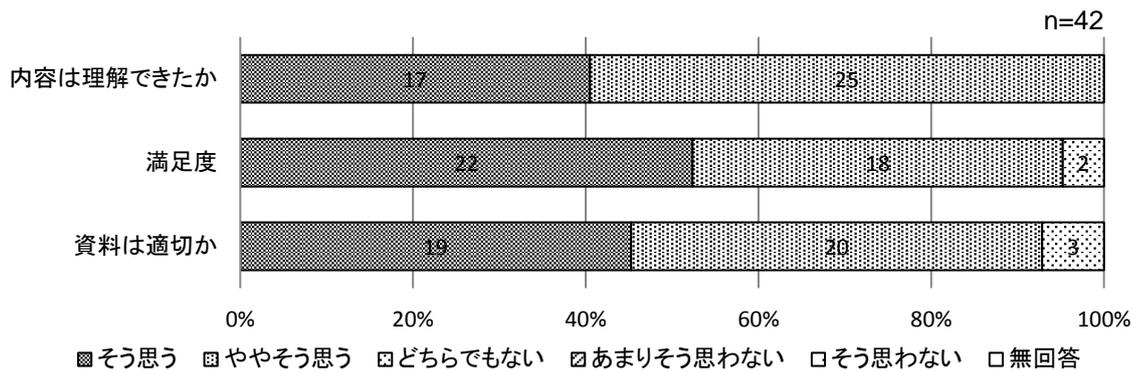


図4 第1回講座：文献検索の方法について

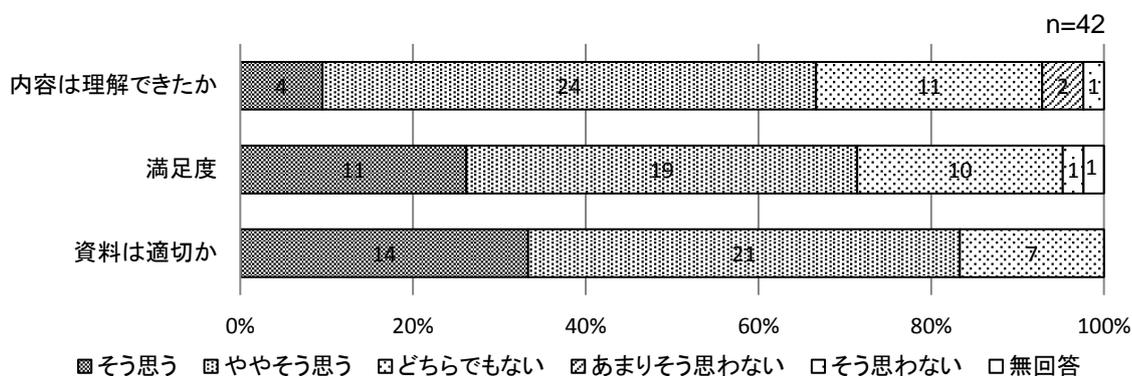


図5 第1回講座：文献クリティークについて

第2回の講座は、『量的研究』『基礎統計』『質問紙調査の方法』『Excel を活用したデータ処理』に関する内容であり、基礎統計と Excel を活用したデータ処理を除いた内容については、80%が理解したと回答していた（図6～9）。

第2回講座は、量的研究における基本である基礎統計を学び、研究を進めるうえで必要な質問紙調査の作成や、質問紙への回答後に行うデータ処理という、実際行う研究の流れを体験する内容であった。

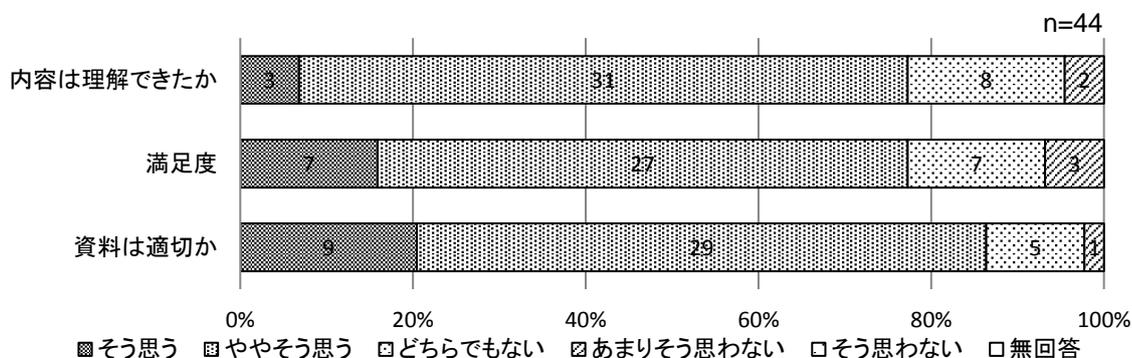


図6 第2回講座：量的研究について

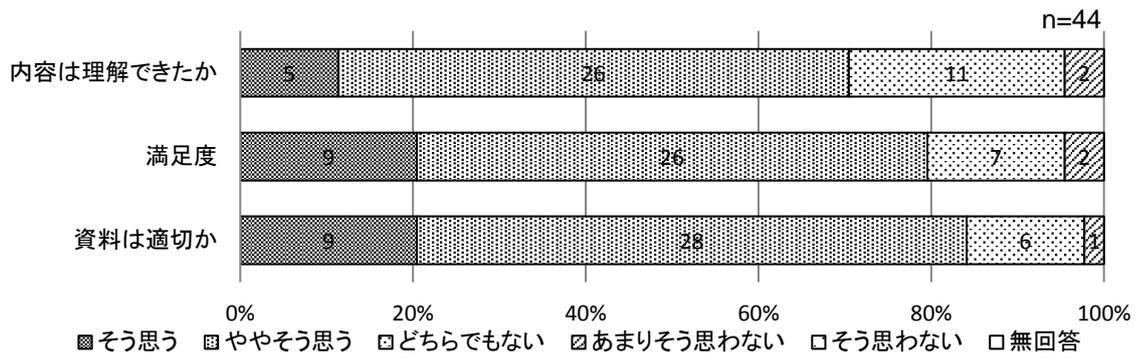


図7 第2回講座：基礎統計について

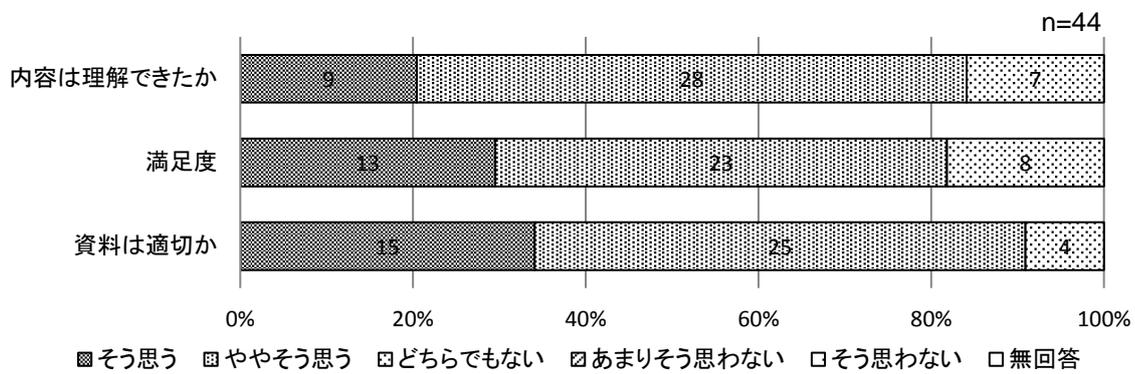


図8 第2回講座：質問紙調査の方法について

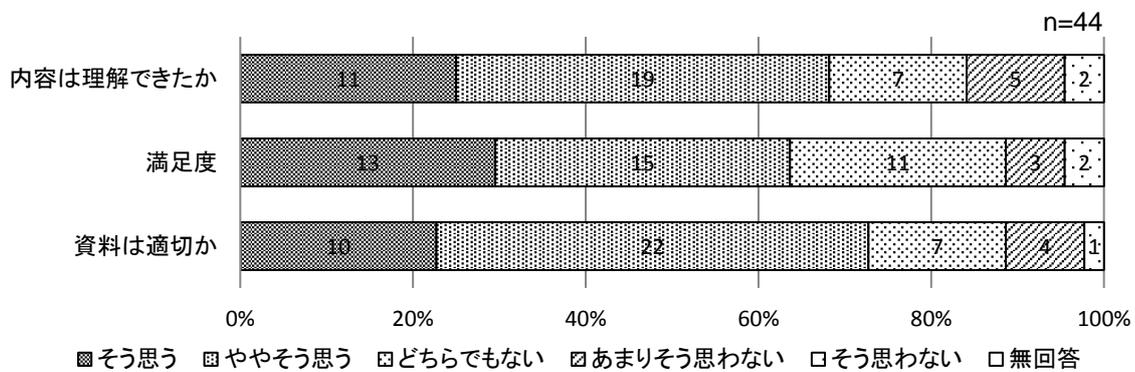


図9 第2回講座：Excel を活用したデータ処理について

第3回の講座は、『質的研究』『面接調査の方法』『分析方法』『学会発表の方法』に関する内容であり、質的研究や学会発表の方法については、おおよそ80%が理解していた(図10~13)。質的研究の分析方法については、内容の理解、満足度ともに60%を超えていた。

第3回の講座では、質的研究の概要や面接方法の講義を受けた後に、例題を用いた分析演習を個人演習と、グループで体験する内容であった。また、学会発表する方法については、第2回講座の量的研究と今回講座の質的研究の成果を発表するための講義と演習という内容であり、演習による理解は80%を超えていた。

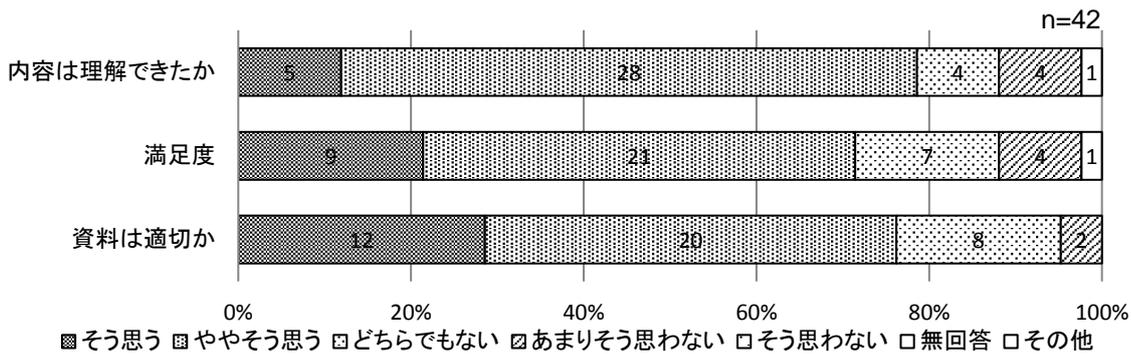


図10 第3回講座：質的研究について

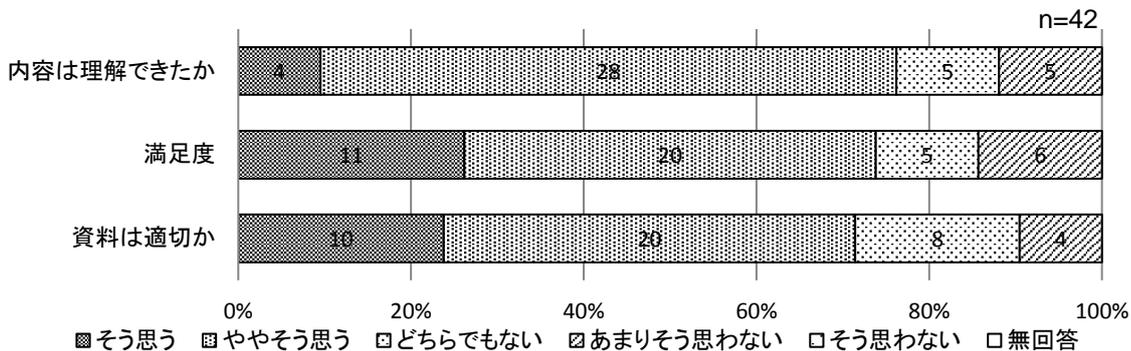


図11 第3回講座：面接調査について

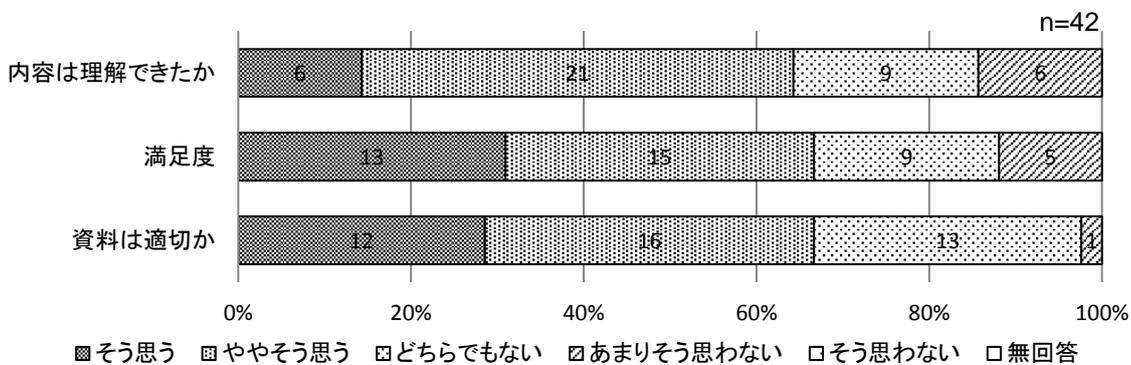


図12 第3回講座：分析方法について

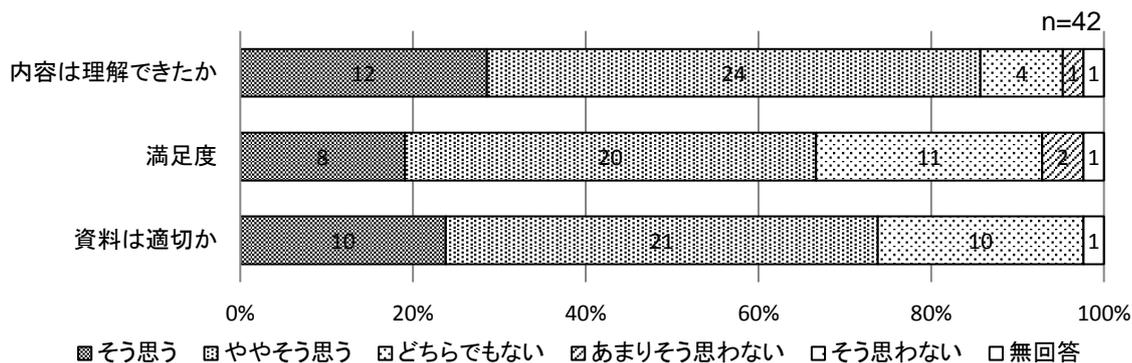


図 13 第 3 回講座：学会発表の方法（口演・示説）について

### (3) 受講生の満足度

第 1 回から第 3 回の受講生の講座における受講生の満足度は、どの講座においても、そう思うとややそう思うが 70%であった（図 14）。

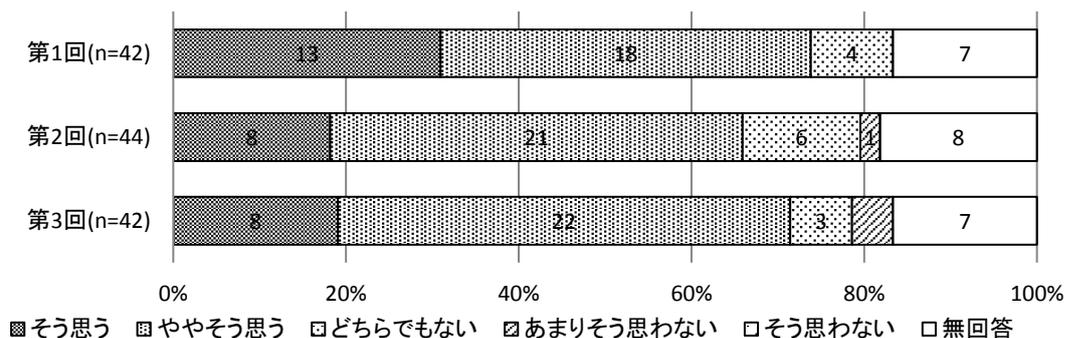


図 14 第 1 回～第 3 回の講座に対する受講生の満足度

### (4) 今後の研修テーマ

本学キャリアアップセンターにおいて、今後学んでみたいテーマの希望を第 3 回講座の後に調査した。研究に関するテーマは、研究テーマの選定・計画書について、分析方法、統計、研究のアドバイスの方法、質的研究に関することであった（表 3）。また、研究以外のテーマでは、教育・管理について、フィジカルアセスメントについて、エンドオブライフケアであった（表 4）。

表 3 研究に関するテーマ

- ・ 研究テーマの選定・具体的な方法について
- ・ 研究計画書について（具体的な例など）
- ・ 研究計画書・倫理審査について
- ・ 質的研究・量的研究をもっと詳細に学べるコースを作してほしい（デモ研究・実際の例など）。
- ・ 参考資料や文献のを見つけ方、また時間があまりない時に文献の読み方について
- ・ 文献検索の方法・データ分析・検定について

- ・基礎統計について
- ・エクセルの使用方法をもう少し詳しく知りたい
- ・研究中のスタッフに意見を求められた時のアドバイスの着目点 など

**表4 研究以外のテーマ**

- ・教育・管理について
- ・看護師・助産師ラダーで必要な研修（必須研修）
- ・フィジカルアセスメント
- ・エンドオブライフケア
- ・心理学
- ・学生や新人への関わり，指導について など

### (5) 講座に対する意見および感想

受講生に本講座を受講した感想・意見については，以下の回答を得た（表5～7）。

**表5 第1回講座の感想・意見**

#### 1. 学び

- ・研究の進め方の流れがよく分かった。計画書の書き方がとても分かり易かった。
- ・今後自分が研究を行う中で，計画をきちんと立ててすすめる等とても参考になった。
- ・研究をサポートするにあたり，研究計画書についてアドバイスするには自己の学習が必要だと更に感じました。
- ・自分が文献検索したい内容があまり出てこなかったもので，他のワードでも調べたい。
- ・医中誌での文献検索で今回出てこなかったものがYahoo!等ではキーワードで出てくるものもあるので，この場合，優先されるもの，信頼性等の影響関連があるのか，気になりました。
- ・論文をよみこむことの大切さがわかり，どんどん読もうと思った。
- ・クリティークやエビデンスなど言葉の意味から分からないことが多々あった。
- ・クリティークはとても難しいため，これから様々な論文を読んで深めていきたい。
- ・掲載されている論文は，どれもちゃんとしたものだと思っていましたが，条件によって，その内容が信憑性のあるものか，活用できるものなのか，読み込むことが大事だということが良く分かりました。

#### 2. その他（感想）

- ・講師の先生は，大変内容もききやすく，とてもよかったです。
- ・学びを深めることができ，取り組む意欲につながった。
- ・内容がむずかしかったが，わからない用語などを自己で調べ，自己学習のきっかけとなった。
- ・大切な部分を丁寧に教えていただいた。
- ・他院や他職種の方とも交流や情報交換の場になり，有意義な時間となった。

**表6 第2回講座の感想・意見**

#### 1. 学び

##### 1) 質問紙について

- ・自分自身で質問用紙を作成し，実際に行っていく演習はわかりやすく，良かったです。
- ・質問用紙の作成は，実際にやってみて疑問が出て，分かりやすかった。

- ・パソコンは毎度触れながら何度も相談しながら学ばせてもらいひらめくことが多いです。質問用紙については病棟でも作成したり受けたりすることが多く思いかえしながら学べた。また、基礎となることも改めて学ぶことができ今まで自己流だったことに気づかされた。
- ・実際に質問紙を作成しデータ入力することで、複数質問がいけないことが実感できた。
- ・質問用紙は答える側が多かったので、いざ作る立場になると答えやすく明確な内容にしなければいけないと難しく感じました。
- ・量的研究について、どのように集計をとればいいのか、アンケートはどのような項目に設定をすべきかがよくわかりました。

## 2) データ処理について

- ・集計からグラフ化まで初めての作業でしたが分かりやすかった。
- ・質問紙表を作成、データ入力、活用と実践しながら学べて勉強になりました。悩む部分もありましたが、研究をすすめるながら活用できたらと思います。
- ・データ処理では、普段使わない内容だったので、分かり易く今後実践に活かしていきたい。
- ・説明はわかりづらかった部分もあったが、巡回してくださる先生のおかげでよくわかりました。自分の基本的な知識不足を思い知りました。
- ・Excel を活用したデータ処理について普段の仕事でもアンケート etc をとったものを集計していますが改めて知ることもあり、よい機会となりました。

## 2. その他

### 1) 感想等（設備・スタッフについて）

- ・エクセルの授業は、手技が分からない中で、個々のデータがバラバラだとできているか分からない。パソコンが1人2個あるので、同じ内容で覚えていく方が、分かりやすかったと思いました。
- ・研究は難しいので講義が理解できても実践で上手く活用できるかが課題ですが大変わかりやすかったです。

### 2) 要望や課題

- ・自宅で実践するときと同じ内容を振り返りがむずかしいと思ったので「Excel を活用したデータ処理について」で実際に行った資料をプリントして持ち帰りたかった。
- ・エクセルを活用したデータ処理（演習）については、文字ばかりではなく、手順をパソコン画面（写真などの画像入り）での資料にしてほしい。

### 3) 受講生の力量

- ・自分が、パソコンを苦手とする所もあって、データ処理はむずかしかったです。もうすこし、さわれるようにしておいてから、参加するほうが、良かったのかなと思っています。
- ・PC 操作に時間がかかり、手順を聞き逃したり、見落としたり、思うように理解できなかった。
- ・データ処理の後半がついていけてなかった。今までよりはデータ処理の活用にいかせそうだと思えた。
- ・スタッフの方がサポートしてくださったので、何とか操作ができた。アンケートについて、あまりそう思わない結果が多いので、何度も帰宅後実施して操作できるようにしておきたい。操作が遅いと、他の人に迷惑をかけているようでとても焦ります。ついて丁寧にやって下さるととても安心できました。

表7 第3回講座の感想・意見

## 1. 学び

### 1) 質的研究について

- ・質的研究の講義は内容が難しかった。先生の説明は分かりやすく、演習の時間も多くとっていただき、GWで個別指導も頂けたので、内容、考え方、進め方、注意点がよくわかりました。

### 2) 面接調査について

- ・今取り組んでいる研究がインタビュー形式でやろうとされていて、とても参考になりました。
- ・インタビューを受けた時、今回学んだ内容でされていたと思いつき返すことができました。

### 3) 分析方法について

- ・分析については文章、文面よりカテゴライズすることが難しかった。
- ・質的研究について実際にコード化したことにより分かりやすかった。タイトルのつけ方が悩んだ。
- ・分析方法は何度かしたことがありますが、何度行っても、終わる頃にやっと理解できるようになります。
- ・コード化を使用した研修に参加したことがありますが、内容をしっかりと理解できないままで行っていたため、今回の説明と実践（グループワーク）で内容を理解することができました。
- ・質的のカテゴリー化が難しいので、体験できたためイメージ化につながった。具体的に学ぶことができた。

### 4) 学会発表の方法（口演・示説）について

- ・パワーポイントの基本的操作を学ぶことができたので、実践で活用していきたいです。学会発表の注意点なども経験・体験談を通して聞くことができたので、研究メンバーと共有したいと思いました。
- ・昔よりパワーポイントも使いやすくなっている事もあり、理解できたと思います。
- ・口演と示説の説明がわかりやすく、今年度示説での学会発表を考えているので参考にさせていただきたいと思います。

## 2. その他（感想）

- ・質的研究をしたこともなく、どういう研究なのか、初めてでもあり、難しく、先生の話されている事もなかなか理解できず。
- ・グループワークは色々な意見が聞けるので楽しいです。
- ・面接調査の内容が難しく理解するのに時間がかかった。事例もあまりなじみがないので、身近なものだともっと理解しやすいと思いました。
- ・質的帰納的分析をするにあたって初めてという事もあり、理解するまでに時間がかかった。例文などをあつた上で、GWするなどがあればよりわかりやすかったのではないかと思います。
- ・質的研究、面接調査、分析方法については、結局どうなのかが理解できなかった。
- ・分析方法について、カテゴリー化したものをどう考察すればよいかまで教えてほしかったです。
- ・グループワークできたのは、1人では迷ってしまえなかったのが良かったです。
- ・パソコンを使い慣れていないので、パワーポイントの使い方についていくのが大変でした。家に帰って再度さわってみたいです。
- ・自分の知識になかったことを教えて頂いて、また知っていたことでも、知識を深めることができて良かったです。

## 2) 第4回個別相談サポートについて

### (1) アンケート結果

今回の個別相談では、50%の人が研究活動に取り組んでいると回答していた。研究疑問を担当の講師に尋ねることができたことと90%近くの相談者が回答し、講師の助言により、80%以上の相談者が疑問は解決したと回答している。さらに、相談を受けた70%が、継続的にサポートを受けたいと希望していた（図15）。

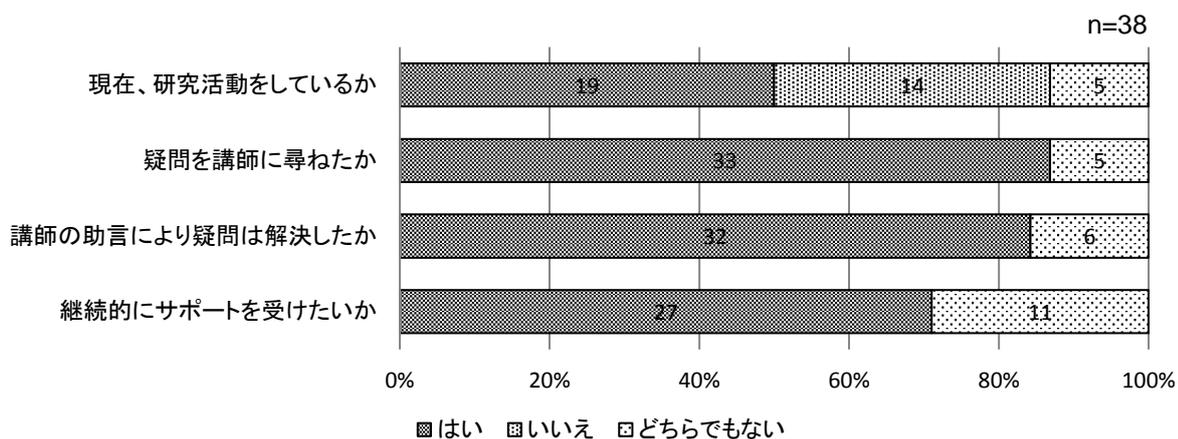


図15 個別相談評価

### (2) 講座に対する意見および感想

受講生に本講座の個別相談に対する感想については、以下の回答を得た（表8）。受講生は、自分の研究相談を行うことで、より具体的な助言を得ることができていた。また、少人数に分かれ、受講生同士が研究内容について確認できたことで、研究に対する前向きな感想を述べていた。

表8 個別相談に対する感想

#### 1. 学び

- ・看護研究の基礎を再確認できた。他の受講生の意見をきき、「はっと」気づくことがあった。
- ・相談することによって新しい疑問がでてきました。
- ・相談できたことで、疑問に思っていたことが分かり、研究することへの意欲がわきました。とても楽しい時間でした。

#### 2. その他（感想）

- ・最終日の先生からアドバイスを受ける時間が一番よかったです。少人数で、質問もしやすかった。
- ・質問しやすく親切に答えていただきました。
- ・教員の方に直接指導いただき、疑問が解決しました。
- ・他の方の研究内容も聞けて、質問に対するアドバイスもわかりやすく、とても参考になりました。

個別相談に対する看護教員の指導内容については、相談に対応した教員から指導内容について、以下の報告があった（表9）。

表9 個別研究相談に対する看護教員の指導内容

- |  |
|--|
| <p>1. 研究の問いをどのように絞り込めば良いか、研究目的は何かを明確にする。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・テーマに関しては「問い」か「結果」を見ただけでわかるように絞り込んだものとする。</li><li>・何を明らかにしたいのかによって質問項目は変わる。単なる指導内容を明らかにするのか、そこに至る思考過程も明らかにしたいのか、思いを聞きたいのか、明確にした方がいい。</li><li>・業務改善でなく研究とするには、現状を明らかにし、看護師の関わりが統一されることで患者にどのようなメリットがあるか、現在患者はどのような困難を抱えているのかを明らかにしたうえで、目的を明確にしたほうが良い。目的が明確になれば、今後指標を作成した際の評価にもつながる。</li></ul> <p>2. 研究方法について</p> <p>1) データ収集方法について</p> <p>(1) 量的研究</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・質問紙調査にする場合：研究チームで話し合っって現在行っている指導内容をある程度詳細に明らかにしたうえで質問項目を作成したほうが良い。スケールを使う質問と自由記載とする質問項目と両方用いてはどうか。自由記載にした場合、質問項目の問い方によって出てほしい答えが出ないこともあるので吟味する必要がある。</li><li>・ここ数年のデータから、患者の不満足・満足等の傾向がわかり、かつ調査開始時から、手術に関する環境等、満足度に影響する要因が変化してきているのであれば、満足度調査の目的を明らかにしたうえで、現状の満足度について質問項目を組み立てることも、選択のひとつ。これまでの調査によって、相談者の目的が、患者指導の見直しであるのであれば、これまでの、結果を踏まえ今後、術前訪問・術後訪問の在り方を見直し、それをふまえた、満足度調査を行う、ということも選択する。満足度調査で何を知りたいことは何か、明らかにしたいのか、明確にする。</li><li>・今後マニュアル作成を予定するのであれば、患者に指導したことで、患者からどのような反応があったか（理由・メリット）も聞くと、マニュアル作成の根拠となって良いのではないか。</li></ul> <p>(2) 質的研究</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・インタビューにした場合：詳細や思考過程を明らかにするには、インタビューが良いが、2年以内の期限を考えると、対象を絞る必要がある。対象を選定するには、選定の根拠を明確にする必要がある</li><li>・インタビューガイドを作成する場合は、大項目を質問したあとに、細かい項目を聞いていくと良い。</li><li>・インタビューガイドでは、思いとか抽象的でなく、家族の不安はなにかそのままきくことから始めるようにアドバイスする。</li></ul> <p>2) 分析方法について</p> <p>(1) 量的研究</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・先行研究が少ないということで、アンケートの中に、自由記載を設けて質的に分析してみるはどうか。</li><li>・既存のデータを資料化（見える化）して、課題を検討したときにその課題が、優先順位が高いかということだと思うが、町のすべき課題から、町の現状を見るほうがよいのではないか。</li><li>・アンケートの結果（記述式）が、箇条書きにされているので、その内容を一つずつ読み込み、要因を</li></ul> |
|--|

明らかにしていくことが必要である。患者自身の問題か、それとも看護師が責務を果たしていないのか、という視点で行う。患者要因（高齢で理解不足）と、看護師側の要因か、の視点で分析を行うとよい。

#### (2) 質的研究

- ・質的帰納的研究のため、分析の際は、4人の研究メンバーでしっかり話し合い、一致率をみるなど信頼性を確保しなければいけない。

#### (3) その他

- ・現状の分析は、まずは単純集計をきちんとすること。情報は量だけではなく、質的データ（母のインタビュー等）の両方が必要であること説明する。

### 3) 文献検討の必要性について

- ・文献検索について医中誌の使い方について説明する。
- ・計画書の参考文献に原著論文が少なかったため、文献を充実させる方がなおよいと助言した。
- ・定義を明確にするよう、学会ガイドラインを紹介した。同じような研究が既に多数あるので、文献検討から始められるとよいことを説明した。
- ・調査で何を知りたいことは何か、明らかにしたいのか、明確にし、そのポイントに沿って一貫性をもって、研究を組み立て、考察をすすめる必要がある。先行研究を概観するにあたっての、キーワードの設定、関連文献の探し方について、話をした。
- ・アセスメント能力の評価項目について、先行研究で用いられているものをアレンジして使用してみる方法がある。

### 4) 倫理的配慮、倫理審査について

- ・皮膚障害の判定にはスケールなど、客観的指標を用いることを説明した。被験者への同意書が必要であることを説明した。
- ・研究目的を明確にし、何についてアセスメントするのか、何について比較するのかを明確に計画書に文章化するように、アドバイスした。何と何を比較するのか、どのようにアセスメントするのかは先行研究のアセスメントツールおよび尺度を持っておられた。その通りに実施したいということであったため、先行研究の著者にアセスメントツールや尺度の使用許可を申請する必要性が生じる可能性についても説明した。
- ・倫理審査を行う体制が院内にないが、介入研究になるため同意書を作成する必要があることや同意書の書き方について説明した。
- ・倫理審査がなかなか通らないが、承認前に始めたらいけないのか。承認されてから実施するように伝える。

### 3) キャリアアップ講座（第1回～第4回）について

#### (1) 全体に対する満足度，研究への関心への高まり

キャリアアップ講座全体に対する満足度は、「そう思う」と「ややそう思う」を合わせると9割以上であり，満足度は高かった（図16）．また，キャリアアップ講座終了後には，研究に対する関心は高まったかについては，「そう思う」と「ややそう思う」を合わせると9割以上であった（図17）．

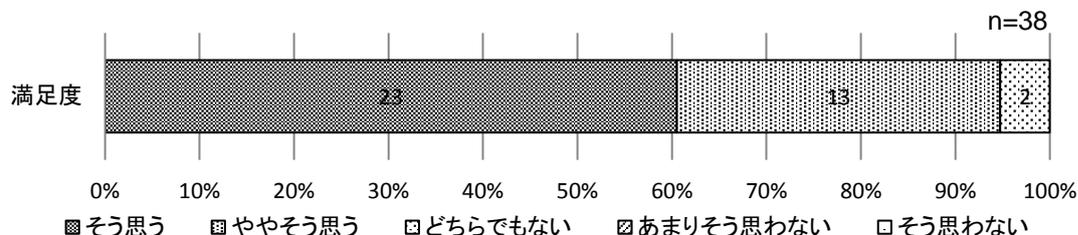


図16 本講座全体に対する満足度

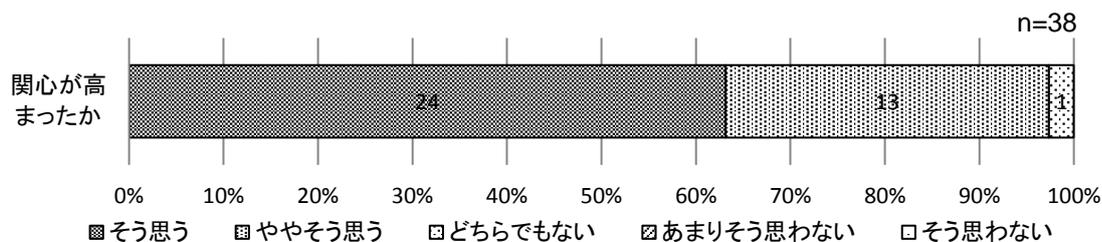


図17 研究への関心への高まり

#### (2) キャリアアップ講座全体に対する意見および感想

キャリアアップ講座全体に対する意見や感想については，研究への取り組み，量的研究，質的研究について，以下の報告があった（表10）．

表10 講座全体の感想・意見

##### 1. 研究への取り組み

- ・この学びを研究や活動につなげていきたい。
- ・今後，職場で活かしていきたいです。
- ・この研修は今後も続けてもらい，後輩も参加してもらいたいです。
- ・看護研究の講座に参加することが初めてだったので，わかりやすかったです。
- ・研究に関する知識を深めることができました。
- ・研究は難しく悩みはつきないですが，ヒントをたくさんいただきました。
- ・研究してみたいという気持ちになりました。たくさんの準備をしていただいて本当にありがとうございました。
- ・大変意義のある講座でした。研究の基礎を学びました。
- ・教育，指導の面においても充足できた。

- ・ 研究的視点や研究に取り組む重要性を持てた。

## **2. 量的研究について**

- ・ PC の使用方法など実際にエクセルを使用しながらの講義で苦手意識が便利性を学ぶことができた。
- ・ 量的研究の講義に参加できなかったのが、次回機会があれば参加したいです。
- ・ 統計とデータ処理が難しく理解は十分ではありませんが、自分でも時間をかけて勉強します。

## **3. 質的研究について**

- ・ 質の研究が良く分かっていませんでした。今回の講座で少しですが、理解できました。

## 2. キャリアジャンプ講座について

第5回講座「キャリアジャンプ」において受講者の自己評価アンケートを実施した。

キャリアジャンプの受講者は17人(うち大学院生5人)で、アンケート回収数は16人(回収率94.1%、有効回答率100%)であった。

### 1) 基本属性 (表11)

年齢層は、前年度同様に40歳台が最も多く、所属施設は病院が93.8%を占めている。また、職種も看護師がほとんどであり、病院での研究活動を行うために受講していた。

表11 キャリアジャンプ受講者の属性

個人の属性	n=16	
	人数	割合(%)
性別		
男性	3	18.8
女性	13	81.3
年齢		
20歳代	2	12.5
30歳代	3	18.8
40歳代	6	37.5
50歳代以上	5	31.3
職種		
看護師	16	100
保健師	0	0
助産師	1	6.3
介護職	0	0
その他	0	0
所属施設	人数	割合(%)
病院	15	93.8
介護老人保健施設・老人ホーム	0	0
訪問看護ステーション	1	6.3
保健所	0	0
その他	0	0

## 2) キャリアジャンプ講義の内容について

講義内容の理解に関しては、約6~8割が理解したと回答した。講義資料に関しては、9割が適切であると回答した(表18~20)。キャリアジャンプ講座は、キャリア講座と同様に、学部教員がサポートを行った。また担当講師はExcelやSPSSの習熟度に応じた資料準備を行った。

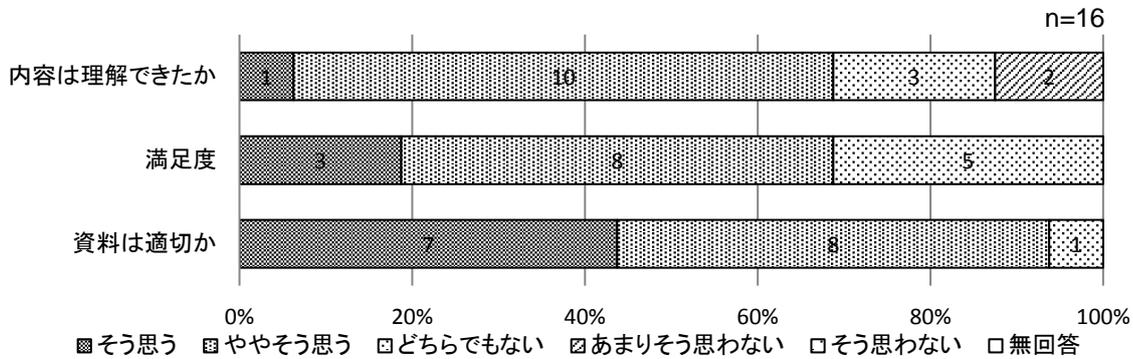


図18 統計基礎解析の基礎について

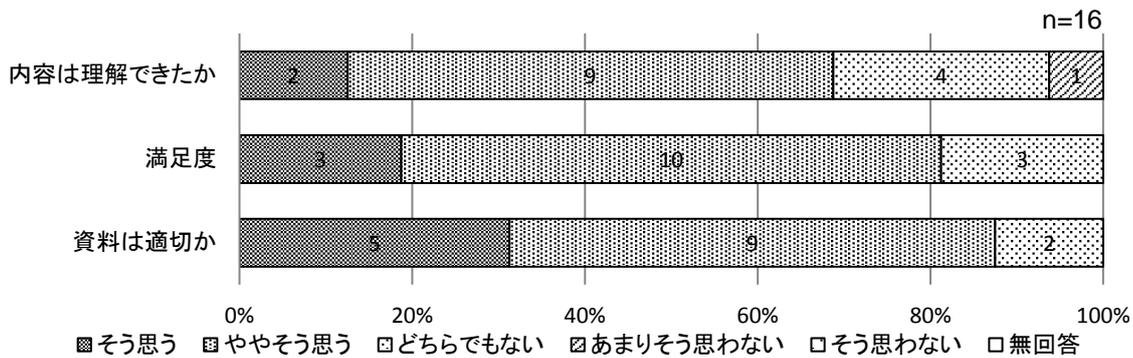


図19 統計基礎の演習について

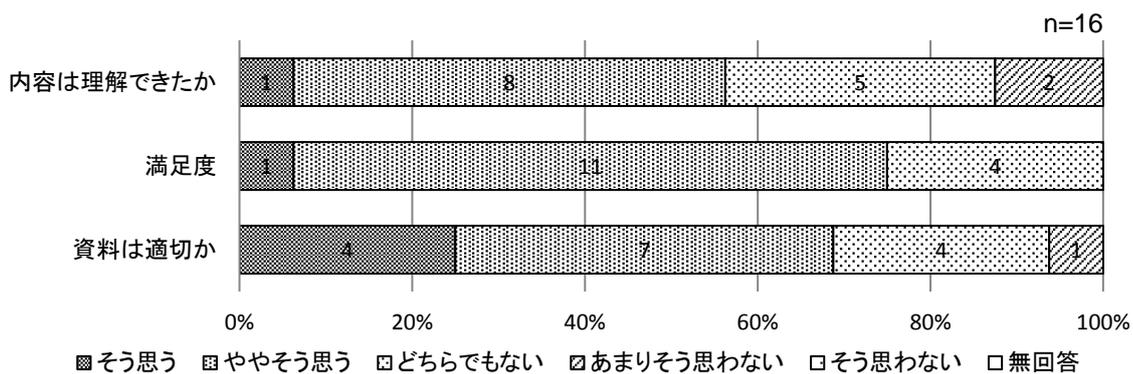


図20 SPSSについて

### 3) キャリアジャンプ講座に対する意見および感想について

受講生に本講座を受講した感想・意見については、以下の回答を得た（表 12）。

表 12 講座の意見および感想

#### 1. 学び

- ・統計について、復習や新たに整理して学ぶことができました。SPSS は実際に使うことができてわかりやすかったです。
- ・今後、論文を読むときも今回学んだことを参考に読み解くことができると思います。スタッフの指導に活かします。
- ・難しいですが、なんとなくわかりました。使いこなせれば、良い研究ができることがわかりました。
- ・すすめていただいた本を買ってもっと勉強します・
- ・とても難しかったです。勉強しなおします。
- ・理解は十分できなかったが、SPSS の触りとしてはこのくらいがよい。もっと勉強します。
- ・データを分析するために必要な内容だと良く分かりましたが、何をあきらかにしたいのか、そのために必要なデータを得るために質問紙の作成など、調査をするための準備がとても大切であると思いました。

#### 2. 要望・課題

- ・統計による考察について苦手意識があったが、統計について知ることができた。しかし、時間がたつと忘れそうなので、必要なときは相談させてほしい。
- ・できれば、パワーポイントで1つずつしてほしい。

#### 3. 受講生の課題

- ・あとで振り返るときに（職場に）SPSS がないと難しい。
- ・看護研究をするにあたって、統計を学びたいと思っていたのですが、自分の病院に SPSS ソフトがなく、今までも個人的に依頼していました。ですが、SPSS でた値が意味もわからず発表することになっていました。なかなか、SPSS の講義がないのでよかったです。

### Ⅲ. 卒業生研修会について

#### 1 卒業生研修会の講義内容（シラバス・講義資料）および 担当講師紹介

##### 1) 卒後2年目・3年目研修 1時限目

講義テーマ	臨床における看護研究とは	担 当	流郷 千幸
日 時	平成30年9月20日（木）10:00～11:00	場 所	地域・精神・在宅看護学実習室

##### (1) 講義の概要

研究とは繰り返し、注意深く観察することによって、既存の知識を確認したり、洗練させたり、新しい知識を生み出す作業であることを理解する。また、疑問に考えたり、問題を解決したりするために組織立った科学的方法を用いて行う系統的な探求であることを理解する。

##### (2) 講義の到達目標

- ①卒業研究における学びを活かし、臨床看護研究に取り組める基礎的能力を習得する
- ②臨床での疑問点を明確にし、それを解決するための方法がわかる
- ③学習意欲を向上することができる

##### (3) 講義内容

1. 看護研究とは
2. 研究プロセス、研究テーマの設定
3. 研究デザインを選ぶ
4. 研究を進めるために必要なもの

#### 引用文献

黒田裕子：黒田裕子の看護研究 step by step, 医学書院, 2012.

早川和生編：JJN スペシャル看護研究の進め方 論文の書き方, 医学書院, 2014.

#### 【講師】流郷 千幸（キャリアアップセンター長）

専門は小児看護学で『医療処置を受ける子どもと親へのプレパレーション』に関する研究に取り組んでいる。

## 卒後2年目・3年目研修 2時限目

講義テーマ	研究計画書の書き方	担 当	中川 ひろみ
日 時	平成30年9月20日(木) 11:10~12:10	場 所	地域・精神・在宅看護学実習室

### 1) 講義の概要

科学的方法に則したプロセスを踏み、Evidence-based clinical practiceを踏まえた研究計画書の書き方を理解する。講義と演習により、研究計画書の書き方を概説する。

### 2) 講義の到達目標

- ①研究計画書の目的と意義を説明できる
- ②研究計画の枠組みを理解できる
- ③研究における倫理を説明できる

### 3) 講義内容

1. 研究計画書とは？その意義
2. 研究計画書の枠組み
3. 研究における倫理とは
4. 演習：研究計画書例

### 引用文献

近藤潤子監訳：看護研究 原理と方法，第2版，医学書院，2014。  
系統的看護学講座 別巻 看護研究，医学書院，2017。

### 【講師】中川 ひろみ（成人看護学）

専門は成人看護学で『創傷・オストミー・失禁看護』に関する研究に取り組んでいる。

## 卒後2年目・3年目研修会 2時限目

講義テーマ	文献クリティークの実際 研究方法の実際	担 当	平田 美紀 鈴木 美佐
日 時	平成30年9月20日(木) 13:00~15:10	場 所	地域・精神・在宅看護学実習室

### 1) 講義の概要

文献クリティークについて講義を行い、根拠に基づいた看護を提供するための知識の共有を図る。実際に行った文献クリティークの結果についてプレゼンテーションを行うことにより、研究方法や先行研究の成果を探求し活用することができる。

### 2) 講義の到達目標

- ①文献クリティークの視点が理解できる
- ②先行研究の研究手法や成果が理解できる
- ③根拠に基づいて看護研究の方法が理解できる

### 3) 講義内容

#### 講義

1. 文献クリティークとは
2. ケーススタディ・質的研究・量的研究におけるクリティークの方法
3. 文献クリティークの姿勢

#### 演習

1. 学会抄録のクリティーク
2. 学会論文集のクリティーク
3. 学術論文のクリティーク

### 引用文献

- 黒田裕子(2012)：黒田裕子の看護研究 step by step, 第4版, 医学書院, 東京.  
大木秀一：文献レビューのきほん, 医歯薬出版株式会社, 2013.  
山川みやえ：よくわかる看護研究論文のクリティーク, 日本看護協会出版社, 2014.

### 【講師】平田 美紀

専門は小児看護学で『検査・処置を受ける乳幼児に付き添う母親への支援』に取り組んでいる。

### 【講師】鈴木 美佐

専門は小児看護学で『アレルギーを持つ小児とその母親への支援』に取り組んでいる。

## 2) 卒後1年目研修会

講義テーマ	急変時の対応 ～こんなときどうする～	担 当	國松 秀美
日 時	平成31年3月22日(金) 13:00～14:00(講義) 14:10～15:10(演習)	場 所	成人・老年看護学実習室

### (1) 講義の概要

卒業生研修会が、看護実践力の育成に寄与し、卒業後の学習・相互交流の場となること。また、卒業研修会をきっかけに、学習意欲の向上につながり、卒業生自身が新たな行動指標を確立できるよう支援する。

### (2) 講義の到達目標

- ①看護実践力を高めるための急変時の対する基礎的な知識や技術を身につけることができる
- ②臨床での急変時における疑問点を明確にし、それを対応するための方法がわかる
- ③学習意欲を向上することができる

### (3) 講義内容

1. 急変に結びつく危険な徴候とは
2. アセスメントの方法
3. 意識障害, 呼吸困難, 胸痛急変のアセスメントと対応

### 引用文献

アメリカ心臓協会：BLSプロバイダーマニュアル。

池上敬一, 浅香えみ子(2015)：患者急変対応コース for Nurses ガイドブック, 中山書店。

急変対応 1-2-3iMEP コーステキスト。

山畑佳篤(2017)：日本救急医学会 ICLS コースガイドブック, 羊土社。

### 【講師】國松 秀美

専門は成人看護学で『救急看護・災害看護に関すること』に取り組んでいる。

## 2. 卒業生研修会に関するアンケート結果

### 1) 卒業後2年目・3年目研修会について

今年度の受講登録者数は12人（大学院院生含まず）であり、アンケートの回収数は11人（回収率91.6%、有効回答率100%）であった。なお、倫理的配慮については、研修会のオリエンテーションにおいて口頭で説明したうえで、講座終了後に回収した。

#### (1) 基本属性

受講生の所属は、11名全員が病院であった。卒業後の年数は、1年が7名(63.6%)、2年が4名(36.3%)であった。

#### (2) アンケート結果

##### ① 講義・演習内容・資料について

臨床における看護研究、研究計画書について、受講生は講義・演習内容は概ね理解できており、活用できる資料であったと回答している（図21～24）。

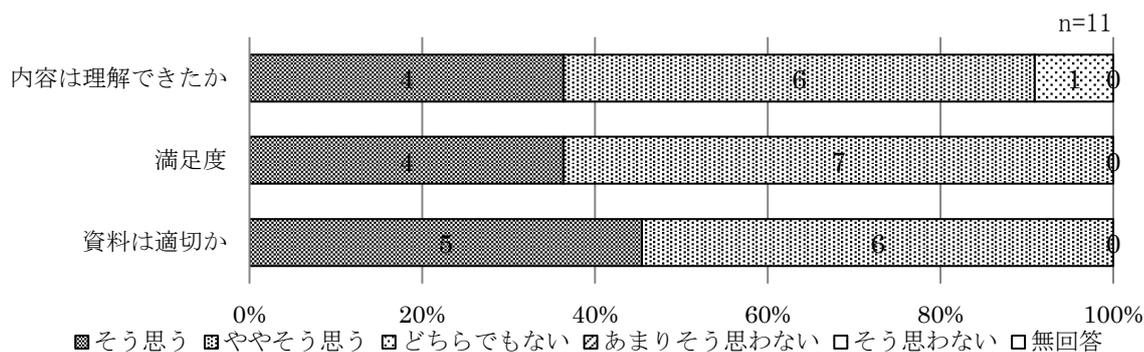


図21 臨床における看護研究とはについて

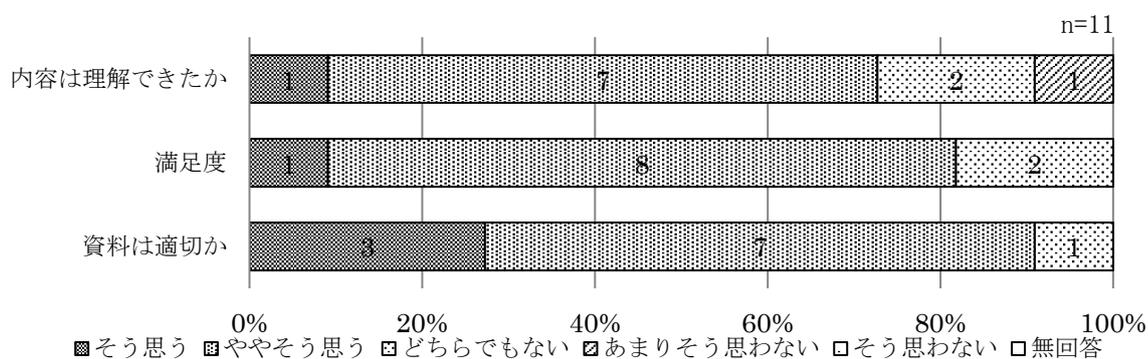


図22 研究計画書の書き方について

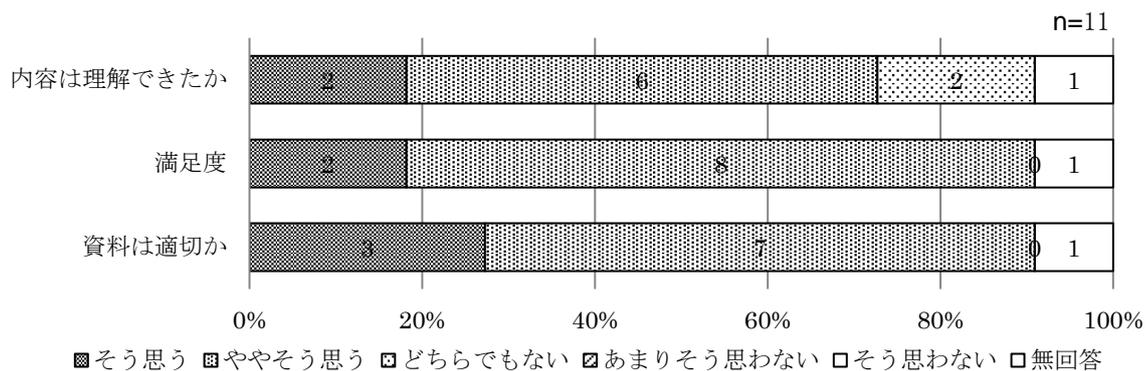


図 23 研究方法の実際について

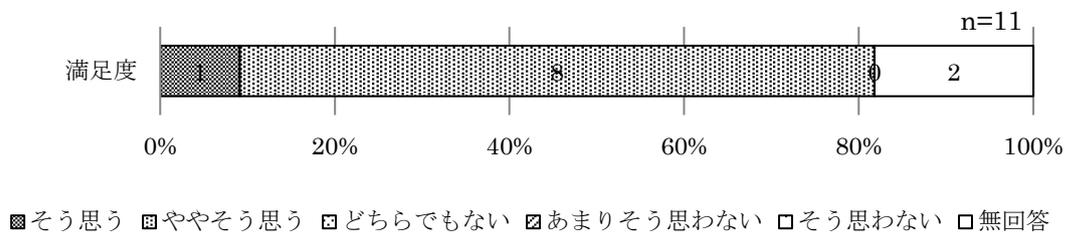


図 24 総合評価

\* 卒後 1 年目研修については、2019 年 3 月 22 日(金)に実施するため、ホームページでの報告とする。

# 資料

- ◆ 聖泉大学看護学部附属看護キャリアアップセンターの概要
- ◆ 聖泉大学看護学部附属看護キャリアアップセンター規程
- ◆ 2018年度 キャリアアップセンター活動計画と実施状況
- ◆ 個人情報の使用に係る承諾について
- ◆ キャリアアップ講座受講者の情報システム利用について
- ◆ 共同研究のお誘い

## 資料

### 聖泉大学看護学部附属看護キャリアアップセンターの概要

#### ■ 看護キャリアアップセンター設置の基本的な考え方

看護キャリアアップセンター(以下センターとする)の設置主旨は、地域の医療、教育の発展と向上のための看護研究や講座の場、あるいは保健・医療・福祉・教育現場の相互交流の場となって、広く皆様の活動に役立てられることにある。

#### ■ センターの目的と機能

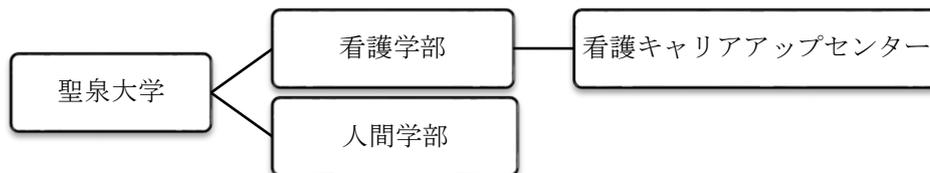
センターは、地域の医療、教育の発展と向上のための看護研究や講座の場として、また保健・医療・福祉・教育現場の相互交流の場としての役割を担うことを目的とし、その目的を達成するために次の事業を行うことによりその機能を果たすものとする。

- (1) 看護の質の向上を目指し、看護研究をテーマとした講座の開設
- (2) 地域の医療関係者、看護教育関係者の研究のサポート
- (3) 地域の医療関係者、看護教育関係者との共同研究
- (4) 地域医療の向上のための研究・調査に関する事業
- (5) 当大学卒業生の研究、講座のサポート
- (6) その他、センターの目的達成のために必要な事業

#### ■ 設置・運営

聖泉大学看護学部看護学科

〒521-1123 滋賀県彦根市肥田町 720 番地 ホームページ <http://www.seisen.ac.jp>



## 資料

### 聖泉大学看護学部附属看護キャリアアップセンター規程

(趣旨)

第1条 この規程は、聖泉大学学則第3条の3に基づき、看護学部附属看護キャリアアップセンター（以下「センター」という。）の構成及び運営、その他必要な事項について定める。

(目的)

第2条 センターは、地域の医療、教育の発展と向上のための看護研究や講座の場として、また医療・福祉・教育現場の相互交流の場としての役割を担うことを目的とする。

(事業)

第3条 センターは、その目的を達成するために次の事業を行う。

- (1) 看護の質の向上を目指し、看護研究をテーマとした講座の開設
- (2) 地域の医療関係者、看護教育関係者の研究のサポート
- (3) 地域の医療関係者、看護教育関係者との共同研究
- (4) 地域医療の向上のための研究・調査に関する事業
- (5) 当大学卒業生の研究、講座のサポート
- (6) その他、センターの目的達成のために必要な事業

(管理)

第4条 センターに、センター長を置く。

- 2 センター長は、センターを代表し、その事業及び管理運営の全般を統括する。
- 3 センター長は、学部長の推薦により学長が任命する。
- 4 センター長の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、前任者の任期途中で就任した場合は、その残任期間とする。
- 5 センターには、必要に応じて客員研究員を置くことができる。

(委員会)

第5条 センターに、委員会を置く。

- 2 センターは、次に掲げる者をもって組織する。
  - (1) センター長（委員長）1名
  - (2) 学部教員 若干名
  - (3) その他、学部長が必要と認めた者
- 3 委員の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、補欠の委員の任期は、その残任期間とする。
- 4 委員会は、次の事項について審議する。
  - (1) センターの運営に関する事項
  - (2) センターの事業に関する事項
  - (3) センターの予算に関する事項
  - (4) センターの研究活動に関する事項
  - (5) その他、センターの目的を達成するために必要な事項

5 委員長は、必要に応じ、委員以外の者の会議への出席を求め、意見を聴くことができる。

(センターの会計)

第6条 センターの会計は、本大学からの支出金および学外からの会費収入、援助金等により賄う。

(起案手続)

第7条 センターの行う事業その他重要な事項は、教授会に提案し、報告しなければならない。

(事務)

第8条 センターの事務は、事務部長が指名する所轄部署において行う。

(規程の改廃等)

第9条 この規程の改廃は、教授会の議を経て学長が行う。

付則

この規程は、平成23年4月1日から施行する。

## 2018年度 キャリアアップセンター活動計画

	活動内容		
	キャリアアップ講座の開催 (規程第3条(1)に基づく)	キャリアアップセンターの運営 (規程第3条(6)に基づく)	研究相談活動 (規程第3条(2・3)に基づく)
2018 4月	ホームページ講座申し込みのアップ キャリアアップ・キャリアジャンプ講座申込受付開始 講師依頼(文書発行) 施設設備の確保・調整・使用申し込み 必要物品など購入手配等、準備 受講申し込みの対応:受け取りの通知 4月26日(木)申し込み締め切り	定例会議 新委員との顔合わせ, 活動計画の説明 年間の定例会議日の決定 諸書類手続き 代表者メールの変更届け 共同研究の窓口、問い合わせ窓口の変更	研究相談の対応 専門教員への取次ぎ
5月	受講者確定、受講決定通知メールおよび郵送 講座開催と支出に関する回議書申請	定例会議	研究相談の対応 専門教員への取次ぎ
6月	必要物品など購入手配等、準備 卒後2・3年目研修会の案内通知の郵送 ①キャリアホップ講座の開催:6月25日(月)	定例会議(前日準備)	研究相談の対応 専門教員への取次ぎ
7月	必要物品など購入手配等、準備 ②キャリアステップ講座の開催:7月25日(水) 研究相談指導にかかるアンケート調査提出	定例会議(前日準備) 臨時会議(今後の講座の課題と対策)	研究相談の対応 専門教員への取次ぎ
8月	必要物品など購入手配等、準備 ③キャリアアップ講座の開催:8月17日(金) 研究相談指導にかかるアンケート調査提出	定例会議(前日準備)	研究相談の対応 専門教員への取次ぎ
9月	必要物品など購入手配等、準備 ④キャリアサポートの開催:8月31日(金) ⑤卒後2・3年目研修会・懇親会開催:9月20日(木) ⑥キャリアジャンプ特別講座の開催:9月21日(金) 今年度開催講座の反省講座の反省会	定例会議(前日準備)	研究相談の対応 専門教員への取次ぎ
10月	講師謝金の支払い等予算執行に関する事後措置 キャリアアップ講座アンケートの集計とまとめ	定例会議 教授会、学科会議での報告	研究相談の対応 専門教員への取次ぎ
11月	次年度実施計画の検討・予算案の作成 卒業生研修会・懇親会の検討・予算案の作成	定例会議(2回開催) 今年度決算及び来年度予算の概算 報告書の作成	研究相談の対応 専門教員への取次ぎ
12月	次年度開催日の検討 卒業生研修会・懇親会の検討・予算案の作成 卒業生研修会プログラムの確定 卒業生研修会・懇親会の回議書決済 案内文書(卒業生・看護部長)の作成・発送	次年度準備 報告書の作成	研究相談の対応 専門教員への取次ぎ
2019 1月	次年度実施計画の作成、講師の依頼調整 次回講座の案内文書の作成	定例会議 報告書の推敲、印刷、発送準備	研究相談の対応 専門教員への取次ぎ
2月	キャリアアップ講座プログラムの確定 来年度予定について教授会報告 報告書・次回講座案内文の発送準備 卒業生研修会・懇親会の案内(ホームページでの参加申込) 出席状況の確認	定例会議 次年度の方針および活動計画の決定 次年度開催日、講座内容、講師、会場 について教授会で承認を得る 今年度予算の執行報告	研究相談の対応 専門教員への取次ぎ
3月	次回講座案内の発送案内の発送 次年度ホームページの更新 卒業生研修会・懇親会の検討、準備 ⑦卒後1年目研修会・懇親会開催:3月22日(金) 卒業生研修会アンケート集計とまとめ	定例会議 報告書の完成・発送 今年度総括と決算 新委員との顔合わせ	研究相談の対応 専門教員への取次ぎ

平成 年 月 日

キャリアアップ講座  
受講者様

聖泉大学看護学部  
附属看護キャリアアップセンター長  
流 郷 千 幸

### 個人情報の使用に係る承諾について

聖泉大学看護キャリアアップセンターは、地域の医療、教育の発展と向上のための看護研究や講座の場、また保健医療福祉・教育現場の相互交流の場としての役割を担うことを目的にキャリアアップ講座（看護研究）を開講しております。その活動・成果は、聖泉大学のホームページや看護キャリアアップセンター活動報告書を通じて、滋賀県の病院等の関係施設に発信しております。

つきましては、講座風景写真、及び終了後アンケート調査結果等、個人情報に係る内容につきまして、使用のご承諾をいただきますよう、お願いいたします。

### 記

1. 講座終了後のアンケート調査（無記名）につきましては、回収をもって同意を得たとさせていただきますが、今後に活かすためにご協力ください。
2. 講座風景写真等の使用については、聖泉大学のホームページや看護キャリアアップセンター活動報告書に関するものみに使用します。
3. 写真撮影時に除外の場合は申し出ください。また、ホームページを通じて掲載された肖像等について、削除依頼があった場合は速やかに削除します。

---

### 個人情報の使用に係る承諾書

キャリアアップ講座（看護研究）風景の写真等、聖泉大学看護キャリアアップセンター活動の広報目的で使用されることを承諾します。

平成 30 年 月 日

聖泉大学看護キャリアアップセンター長 様

氏 名 \_\_\_\_\_

## 資料

# キャリアアップ講座受講者 情報システム利用について

1. 利用資格：キャリアアップ講座受講生（聖泉大学情報センター規程第4・5条）
2. 利用期間：講座申込年度開講初日～当該年度末
3. ユーザー登録とID・パスワードの提供
  - 1) ユーザー登録は、本人が所定の用紙に必要事項を記入し申請する。
  - 2) 情報センターから申請者に対しID・パスワードを発行する。
  - 3) 個人のID・パスワードは、第2回講座からパソコンのログインに使用する。
4. 情報センター利用手続き
  - 1) 情報センター事務室にある「コンピュータ室利用申込」用紙に必要事項を記入する。
  - 2) 受講証明書を情報センターに預ける。それと引き換えに、許可証を受け取る。  
(受講証明書を所持しない場合は、原則利用は認められない。)
  - 3) 許可証に記載された番号のコンピュータを使用する。
  - 4) 利用終了後、情報センター事務室において1)で記入した用紙に終了時刻を記入する。
  - 5) 許可証と引き換えに受講証明書を返却してもらう。
5. 情報センターコンピューター室の利用
  - 1) 第1コンピュータ室のみ利用を許可する。
  - 2) 開館日程は提示される。
  - 3) 利用できない日
    - a) 土日祝日
    - b) 学部定期試験前1週間前から学部定期試験期間中
    - c) 水曜日 12:00-14:30（利用状況によって、変更される可能性あり）
    - d) システムメンテナンス実施期間中（夏期休暇期間中を予定）

\*なお情報センターの開館日程については、キャリアアップ講座開講時および看護キャリアアップセンターホームページに情報提供する。
  - 4) 利用目的は、文献検索ならびに関連作業のみとする。
  - 5) Webは閲覧可能であるが、一部のページ、動画サイトは、コンテンツフィルターによる制限がかかるため閲覧ができない。
  - 6) メール利用はできない。
  - 7) 取得情報の保存に当たっては、個人で保存すること。
6. 使用検索システム  
医学中央雑誌、シナールについて利用可能であるが、利用数に制限がある。
7. プリンター利用について
  - 1) ポイント購入制   20ポイント：A4 白黒印刷 20枚＝100円  
                          100ポイント：A4 白黒印刷 100枚＝400円

以上

## 共同研究のお誘い

### ■共同研究をしませんか

看護キャリアアップセンターでは、地域の医療、教育の発展と向上のための看護研究や講座の場として、また医療・福祉・教育現場の相互交流の場としての役割を担うことを目的として、地域の医療関係者、看護教育関係者との共同研究を積極的に行っております。

共同研究の実施形態として、本学教員と共同または分担して研究するほか、医療施設での研究の指導・サポートも可能です。

### ■共同研究のすすめかた

- ・研究テーマは決まっているが、適当な教員がわからない場合

お問い合わせください。担当者がサポートいたします。

- ・共同研究をしたい教員が決まっている場合

当該教員におつなぎいたします。研究内容・期間・研究計画等をお知らせください。

### ■本学教員研究内容紹介

自分のしたい研究テーマを推進する教員が不在の場合でも一度ご相談ください。可能な限り対応させていただきます。

### ■お申込み

下記連絡先へお問い合わせください。

### ■受け入れについて

申込みいただいた内容を確認しまして、共同研究の受け入れを決定いたします。

### ■その他

共同研究を行う拠点として本学併設の研究施設（図書館・情報センターほか）などがご利用いただけます（研究推進目的に限る）。

### ■申込み及び問い合わせ先

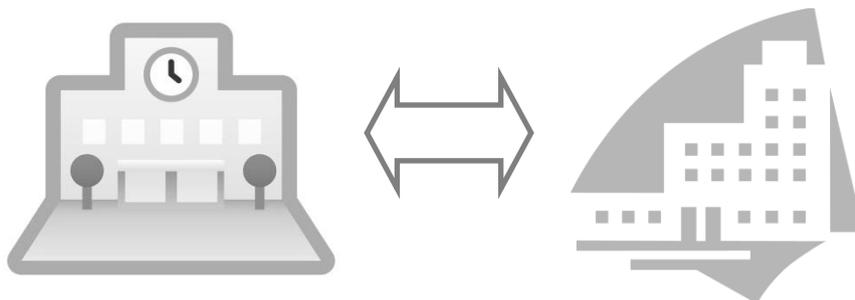
〒521-1123 滋賀県彦根市肥田町 720 番地

聖泉大学 看護学部附属 看護キャリアアップセンター

Tel : 0749-47-8400 (代表)

Fax : 0749-43-2411

E-mail : kango-career@seisen.ac.jp



聖泉大学看護学部附属看護キャリアアップセンター キャリアアップ講座 共同研究申込書

申し込日	平成 年 月 日	
申請者名		
申請者 所属施設名		
連絡先	電話	
	FAX	
	E-mail	
	その他	
研究テーマ	有	テーマ(研究着手前・着手後)
	無 その他	
研究概要	背景 目的 など	
発表予定	有	・施設内 ・学会 ・雑誌投稿
	無 その他	・予定なし ・その他
共同研究を 希望する 教員	あり・なし	
	該当する領域または教員名 ( )	
相談希望 日時		

問い合わせ先  
 聖泉大学 看護学部 附属看護キャリアアップセンター  
 担当：安孫子、桶河、大村  
 住所：滋賀県彦根市肥田町720番地  
 TEL: 0749-47-8400(代表) FAX: 0749-43-2611(教務課)  
 E-mail: kango-career@seisen.ac.jp

## あとがき

聖泉大学看護キャリアアップセンターは、地域の医療、教育の発展と向上のための看護研究や講座の場、また保健医療福祉・教育現場の相互交流の場としての役割を担うことを目的に2011（平成23）年、看護学部開設と同時に設置され7年が経過しました。

当センターの大きな事業は、看護の質の向上を目指し、**看護研究をテーマとした【キャリアアップ講座】**であります。

看護研究の進め方、文献検索、研究方法、データ分析、まとめ方と発表、研究相談までを<ホップ><ステップ><アップ><サポート>として、4回（4日間）開講し、全て受講した方に修了証を交付しております。2011（平成23）～2017（平成29）年度の7年間で修了者は161名に達しました。加えて2014（平成26）年度からは特別講座<ジャンプ>として、統計解析を中心としたレベルアップ講座を開講し4年間で47名の受講者がありました。

このように滋賀県内の多くの看護職等の方々が<キャリアアップ講座>を受講していただきましたことに感謝申しあげ、当センターが教育・研究の相互交流の場としての役割を担い、充実・発展してきておりますことを大変嬉しく思っております。

そこで、修了者の方達が臨床看護の場においてどのような形で活かされているか、その成果とニーズを把握し、当センター事業に反映していくことを課題として、「キャリアアップ講座修了者における看護研究活動の実態調査」を行いました。その結果は、12月7日に開催の第22回滋賀県看護学会で報告し、滋賀県看護協会の承諾を得て集録集（p71-73）から本報告書に転載させていただきました。ご協力いただきました方々に心から感謝申し上げます。

また、本看護学部は、第4期生まで卒業生の約80%が滋賀県内に就職という、まさに地域で育てられ地域に貢献する看護職者育成の学部であり、卒業生の今後の成長・活躍を期待するところです。

そこで、当センター事業の一環である**【卒業生研修会】**を、9月に卒後2年目・3年目研修テーマ「臨床看護研究ことはじめ」を、3月に卒後1年目研修テーマ「こんなときどうする？急変対応」を開催いたしました。

また、平成27（2015）年度に開設の大学院看護学研究科と別科助産専攻におきましては、時代のニーズに対応できる実践リーダー育成を目指して改革と発展の道を歩んでおり、この3月には、大学院第2期の修了生、別科助産専攻第3期の卒業生を輩出することができました。これもひとえに地域の皆様のご支援の賜物と感謝申し上げ、修了生・卒業生の活躍を期待しております。

当センターにおきましても常に将来を見据えて、目的に向けた役割が果たしていけますよう、皆様のご支援ご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。

2018年3月

聖泉大学看護学部附属看護キャリアアップセンター長  
流 郷 千 幸

# 聖泉大学看護学部附属看護キャリアアップセンター活動報告

2018 年度

Vol. 7

---

発行日

2019 年 3 月 30 日

発行者

聖泉大学看護学部附属看護キャリアアップセンター委員会

委員長 流 郷 千 幸  
副委員長 安孫子 尚 子  
桶 河 華 代  
井之口 文 月  
山 根 加奈子  
村 井 博 子  
森 本 恵り子  
川 橋 けい子

発行所

聖泉大学看護学部附属看護キャリアアップセンター

Email:kango-career@seisen.ac.jp

TEL. 0749-47-8400

印刷所

ひがし印刷